

授業科目等の概要

(医療専門課程歯科衛生士科) 令和7年度																		
			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業コマ数	授業 数 業 時	単 位 数	授業方法			場所		令和3年			企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択							講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	実務経験		
○			化学・生物学	化学・生物学の基礎的事項について理解させ専門科目の理解を促す	1通	30	60.0	4	○			○			○			
○			英語学	歯科臨床において患者対応できる英会話の基礎を学ぶ	1通	30	60.0	4	○			○			○	○		
○			一般教養・日本語	社会人としての一般常識・日本語力を養う	1前	15	30.0	2	○			○		○		○		
○			ビジネス実務	チーム医療の担い手として社会人の対応法を身に着ける	1前	15	30.0	2	○			○		○		○		
○			解剖組織学・口腔組織学	人体の構造・機能および組織発生の基礎的事項を学ぶ。また歯および口腔に隣接する組織の構造を学ぶ。	1前	24	48.0	3	○			○			○	○		
○			生理学・口腔生理学	生体および口腔の機能・メカニズムを学ぶ	1後	24	48.0	3	○			○			○	○		
○			生化学・口腔生化学	身体を構成する物質について代謝や体内での役割を理解する。また歯・口腔を取り巻く器官の生化学について基本的事項を学ぶ	1後	12	24.0	1	○			○				○	○	
○			口腔解剖学・歯牙解剖学	口腔および歯牙の構造・メカニズム・特徴について学び、口腔の営みについて理解する	1前	26	52.0	3	○		△	○				○	○	
○			病理学・口腔病理学	全身の代表的病変について病態生理を理解し、さらに口腔領域の主な疾病について理解を深める	1通	24	48.0	3	○			○				○	○	
○			微生物学・口腔微生物学(臨床検査)	感染性疾患の原因である微生物について学び発症のメカニズムを理解し予防に繋げる。また口腔微生物の種類と生態および病院論について学び歯科治療に役立てる。	1後	24	48.0	3	○		△	○				○	○	
○			薬理学	薬物の作用機序生体内動態を理解すると同時に各種薬剤の特性を疾病と関連付けながら理解する	1後	15	30.0	2	○			○				○	○	
○			衛生学・地域保健学	健康と疾病の捉え方、健康の保持増進法、疾病予防法について学び地域保健活動の基礎的知識を身に着ける	2後	15	30.0	2	○			○				○	○	
○			口腔衛生学	口腔環境、口腔疾患の病因論・予防法等口腔衛生の基礎的事項を学ぶ	1後	24	48.0	3	○			○				○	○	
○			地域歯科保健学	地域歯科保健の基礎的事項を学び歯科衛生士としての展開法を理解する	2前	24	48.0	3	○			○				○	○	
○			衛生行政・社会福祉	衛生行政の概要および医療の動向を理解し、業務遂行にあたっての法的制度・社会保障・福祉制度についても理解する	2後	15	30.0	2	○			○				○	○	
○			歯科衛生士総論	歯科衛生士の業務について概要を理解させ資格取得に向けての意欲を高めると同時に医療倫理を理解させる	1前	15	30.0	2	○			○			○		○	
○			歯科臨床概論	歯科医療・歯科疾患の概要・歯科治療の概要を理解し医療人としての自覚を促す	1前	16	32.0	2	○			○				○	○	
○			保存修復学	歯の硬組織疾患に対する修復法・使用器材および歯科衛生士の担う役割を理解する	1後	16	32.0	2	○			○				○	○	
○			歯内療法学	歯髄疾患および根尖性歯周疾患に対する治療法・使用器材および歯科衛生士の担う役割を理解する	1後	16	32.0	2	○			○				○	○	
○			歯周病予防基礎	歯周疾患予防・治療の概要を理解し、歯科衛生士の担う役割を具体的にイメージさせる	1後	8	16.0	1	○			○				○	○	
○			歯周療法学	症例をとおり歯周治療の展開法を実感的に理解させると同時に歯周外科の概要および使用器材について理解を深める。	2前	12	24.0	1	○			○				○	○	
○			歯科補綴学	欠損補綴治療・使用器材および歯科衛生士の担う役割を理解する	2前	16	32.0	2	○			○				○	○	
○			口腔外科・歯科麻酔学	口腔外科領域における主な疾病の治療法、全身疾患との関連性および歯科衛生士の担う役割を理解する	2前	16	32.0	2	○			○				○	○	
○			小児歯科学	小児の成長発育・特性および小児治療法を理解し、歯科衛生士として患者管理・指導ができる知識を習得する	2後	16	32.0	2	○			○				○	○	
○			歯科矯正学	矯正治療の目的・治療法を理解し、歯科衛生士として患者管理・指導ができる知識を習得する	2後	16	32.0	2	○			○				○	○	
○			障害者歯科学	心身障害者の抱える各種疾患について理解し、歯科的問題点を把握した対応法・指導法を習得する	2後	10	20.0	1	○			○				○	○	
○			高齢者歯科学	高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を理解した口腔疾患の予防法・治療法を学ぶ。また、口腔ケアの展開法を習得する	2前	10	20.0	1	○			○				○	○	
○			歯科放射線学	歯科放射線に関する基礎知識を学び撮影法・読影法を習得する	2前	10	20.0	1	○	△	△	○				○	○	
○			う蝕予防処置法Ⅰ	フッ化物によるう蝕予防のメカニズムを学ぶ	1後	6	12.0	2	○			○				○	○	
				各種う蝕予防法の理解と技術の習得	1後	14	28.0		○		○	○			○		○	○

○		う蝕予防処置法Ⅱ	安全かつ効果的なう蝕予防処置法の立案と技術の習得	2後	20	40.0	1	△	△	○	○	○	○	○	○	○	
○		歯周病予防処置Ⅰ	歯周疾患予防処置法の基礎的事項の理解と基礎技術の習得	1通	45	90.0	3	△		○	○		○		○		
○		歯周病予防処置Ⅱ	歯周疾患予防処置の安全かつ効果的な技術の習得	2通	45	90.0	3	△		○	○		○		○		
○		歯周病予防処置Ⅲ	歯周疾患予防処置法の基礎的事項を再確認し、効率的な展開法を理解し、疾病予防・健康増進の担い手としての役割を理解する	3前	15	30.0	1	△		○	○		○		○		
○		歯科保健指導Ⅰ	歯科保健指導を展開できる基礎知識と技術の習得	1通	45	90.0	3	○		○	○		○		○		
○		歯科保健指導Ⅱ	多様化するニーズに対応できる歯科知識の習得と歯科衛生過程に沿った展開法の習得	2通	45	90.0	3	○	○	○	○		○		○		
○		歯科保健指導Ⅲ	各フィールドで歯科保健指導を実践できる知識・技術・展開法の再確認	3通	15	30.0	1	△	○	○	○		○		○		
○		栄養指導Ⅰ	心身の健康は食生活との関連性が高いことを認識し、栄養に関する基礎的事項および対象別指導ポイントを学ぶ	1後	15	30.0	2	○			○				○	○	
○		栄養指導Ⅱ	自分自身の食生活の振り返りも含め、現在の食を取巻く問題点を把握した指導ポイントの理解	2前	8	16.0	1	○			○				○	○	
○		歯科診療補助Ⅰ	歯科診療補助業務を実践するための基礎知識と基礎技術の習得	1通	45	90.0	3	○		○	○		○		○		
○		歯科診療補助Ⅱ	各処置に即した歯科診療補助を展開するための知識と技術の習得	2通	45	90.0	3	△	○	○	○		○		○		
○		歯科診療補助Ⅲ	歯科臨床で対応できる歯科診療補助の知識と技術の習得	3通	15	30.0	1	△		○	○		○		○		
○		歯科材料学	歯科診療の流れに即した効率の良い歯科診療補助を展開するための歯科材料に関する基礎的知識と技術の習得	2後	16	32.0	2	○		△	○				○	○	
○		摂食嚥下・介護学	高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ、食物摂取や嚥下に関するメカニズムを十分理解した口腔ケア技術の習得。	2後	26	52.0	3	○		△	○				○	○	
○		看護学	看護の概念を理解し基本的看護技術の習得を図る	1後	8	16.0	1	○		△	○				○	○	
○		臨地臨床実習Ⅰ	歯科診療所の見学および高齢者施設でのボランティアをとおし、歯科治療の概要・衛生士業務の理解を深め、医療人としての自覚を促す	1前	23	45.0	1			○			○	△	○	○	○
○		臨地臨床実習Ⅱ	歯科大学病院、歯科診療所での実習をとおし、歯科衛生士業務について実践的理解を深める	2後	135	270.0	6			○			○	△	○	○	○
○		臨地臨床実習Ⅲ	総合病院歯科口腔外科、歯科診療所および臨地各フィールドでの実習をとおし、知識・技術の習得を図る	3通	293	585.0	13			○			○	△	○	○	○
○		卒業研究	歯科診療所実習で担当した歯科保健指導症例について、歯科衛生過程に即したまとめ抄録作成および発表を行い理解を深める	3通	40	80.0	2		○		○			○		○	○
	○	情報処理Ⅰ	ワード、パワーポイントの基本的操作法を習得し歯科衛生士業務の展開に繋げる	1後	15	30.0	1	△	○		○				○	○	○
	○	情報処理Ⅱ	エクセルの基本的操作法を習得し歯科衛生士業務の展開に繋げる	2前	15	30.0	1	△	○		○				○	○	○
	○	コミュニケーションⅠ	自己と向き合い自己理解を深めと同時にコミュニケーションの基礎を身に着ける	1通	20	40.0	2	△	○		○				○	○	
	○	コミュニケーションⅡ	医療人に求められるEQを理解し、患者様に寄り添えるコミュニケーション能力を身に着ける	2前	10	20.0	1	△	○		○				○	○	
	○	カウンセリング	カウンセリングの基礎を学び、患者様との信頼関係を構築するためのカウンセリング技術を理解する	2後	10	20.0	1	△	○		○				○	○	
	○	歯科医療保険事務	医療保険の基礎知識、診療録の記入・整理法、診療報酬請求事務について学ぶ	2後	24	48.0	2	○	○		○			○		○	
	○	手話	聴覚障害について理解すると同時に手話によるコミュニケーション法を習得する	2前	16	32.0	1	△	○		○				○	○	
	○	アロマセラピー	健康増進におけるアロマセラピー位置づけを理解し、アロマの知識・技術の学びをとおし人を思いやる心を育む	1後	16	32.0	1	△	○		○				○	○	
		国家試験対策	歯科衛生士国家試験に向けて補習講義・模擬試験模を活用しながら取り組ませる	3後	150	300.0			○		○			○		○	
合計			科目	3376単位時間(126 単位)													

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
修業年限3年以上で修得単位が126単位（授業時間数3,376時間）	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		生物学	六川 雄一
実務経験		高等学校教諭免許を有し、高等学校において理科目教授の経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
1		前期	2(30+2)
授業の目的			
生命現象の不思議に眼を向け生物学の基礎を学び、生命の大切さを認識すると共に、細胞の構造 働きおよび生命現象に関する基本的知識を習得する。			
行動目標			
1. 生物体の成り立ちについて理解する。 2. 生物体の働きについて理解する。 3. 生物体の調整のメカニズムを理解する。 4. 生命の連続性、特に遺伝のメカニズムを理解する。 5. 生物の集団について理解する。 6. 生命の変遷について理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「生物学」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月15日(2)	生物学とは 生命を作る物質 細胞を作る物質 タンパク質の構造 核酸	
2	4月22日(2)	細胞の構造と特徴 細胞の活動 酵素の特徴	
3	4月30日(2)	ATP 細胞呼吸 運動 分泌	
4	5月 7日(2)	組織と器官	
5	5月13日(2)	消化器官系・循環器官系・呼吸器官系・泌尿器官系の構造と働き	
6	5月20日(2)	生殖の方法 減数分裂と体細胞分裂の比較 細胞の一生と個体の成り立ち	
7	5月27日(2)	減数分裂 ヒトの発生 発生と分化のしくみ	
8	6月 3日(2)	遺伝と遺伝子 耳垢の遺伝 血液型の遺伝	
9	6月10日(2)	生命をつくる仕組み 遺伝子の本体 遺伝子の形質支配	
10	6月17日(2)	刺激の受容と反応 興奮の伝達 目と耳の構造と特徴	
11	6月24日(2)	神経系 脳の構造と働き ホルモン	
12	7月 1日(2)	ホメオスタシス 体内時計とバイオリズム 血液の組成と働き 血液凝固	
13	7月 8日(2)	動物の行動(走性 反射と無条件反射 本能行動・学習行動・刷り込み 知能による行動)	
14	7月15日(2)	生物の集団	
15	7月22日(2)	自然と人間 生態系 エネルギーの流れ 生物濃縮	
16	7月29日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		化学	六川 雄一
実務経験		高等学校教諭免許を有し、高等学校において理科目教授の経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
1		後期	2(30+2)
授業の目的			
物質の性質・構造・変化・特性等の基礎的事項を学び、歯科臨床で扱う種々な材料の理解に役立てる。			
行動目標			
物質に興味を持ち、化学の不思議に目を向け、積極的に探求する姿勢を身につけると同時に、化学の基礎的事項を理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。 (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「化学」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 2日(2)	物質とは 同素体 元素と原子 原子の構造	
2	9月 9日(2)	原子番号と質量数 同位体 分子 原子の電子配置 価電子	
3	9月16日(2)	イオン式と名称 イオン化エネルギー 電子親和力	
4	9月30日(2)	元素の周期表 族の名称 物質量(原子量 分子量 式量)	
5	10月 7日(2)	molの定義 化学結合(イオン結合 共有結合)	
6	10月14日(2)	気体(5つの法則) 空気は何から 気体を使う 笑気について	
7	10月21日(2)	パーセント濃度(HCL水溶液 消毒用エタノール オキシドール 百万分率)	
8	10月28日(2)	百万分率 モル濃度	
9	11月 4日(2)	コロイドの性質・種類	
10	11月11日(2)	酸・アルカリの特徴 アレニウス定義 電離式	
11	11月18日(2)	[H ⁺]と[OH ⁻]	
12	11月25日(2)	酸化と還元	
13	12月 2日(2)	有機化合物の特徴・分類	
14	12月 9日(2)	示性拭と官能基	
15	12月16日(2)	環式化合物 ヒトを作っているものは	
16	12月23日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		英語学	ダイス・ヤマカワ
実務経験		外国語スクール非常勤講師・英会話教室講師等の経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
1		前・後期	4(62)
授業の目的			
歯科診療所を訪れる外国人の患者さんとコミュニケーションが図れるように、基礎的な英会話を身につける。			
行動目標			
1. 基礎的な英会話を身につける。 2. 患者さんとの基礎的英会話(受付での会話等)を身につける。 3. 歯科衛生学に関連する専門用語のうち、代表的なものを理解し列挙できる。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験(筆記及び口述)の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		オリジナル教本 歯科衛生学シリーズ「歯科英語」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月15日(2)	クラスの説明 自己紹介 オリジナル教材pg4-6	
2	4月22日(2)	オリジナル教材pg4-6	
3	4月28日(2)	オリジナル教材pg7-9	
4	5月 7日(2)	オリジナル教材pg9,10	
5	5月13日(2)	オリジナル教材pg11	
6	5月20日(2)	オリジナル教材pg12	
7	5月27日(2)	小テスト Review オリジナル教材pg13	
8	6月 3日(2)	オリジナル教材pg14	
9	6月10日(2)	オリジナル教材pg15	
10	6月17日(2)	オリジナル教材pg15	
11	6月24日(2)	オリジナル教材pg17	
12	7月 1日(2)	オリジナル教材pg15,16,17,	
13	7月 8日(2)	オリジナル教材pg10-18	
14	7月15日(2)	オリジナル教材pg11-19 歯科英語: pg15-21	
15	7月22日(2)	前期試験	
16	9月 2日(2)	オリジナル教材pg20 歯科英語: pg 54-55	
17	9月 9日(2)	オリジナル教材pg15,16,17,20,21 歯科英語: pg60,61	
18	9月16日(2)	オリジナル教材pg22 歯科英語: pg 62-63	
19	9月26日(2)	オリジナル教材pg16,17,19,22,23,24 歯科英語: pg 89-90	
20	9月30日(2)	オリジナル教材pg25 歯科英語: pg 95,96	
21	10月 7日(2)	オリジナル教材pg20,21,22,23,24	
22	10月14日(2)	オリジナル教材pg22,23,24,25 歯科英語: 111-112	
23	10月21日(2)	歯科英語: pg 67,68,69	
24	10月28日(2)	オリジナル教材28,29 歯科英語: pg73	
25	11月 4日(2)	オリジナル教材24-27 歯科英語: pg 73	
26	11月11日(2)	試験 Review	
27	11月18日(2)	オリジナル教材18-23	
28	11月25日(2)	オリジナル教材8,17,22,28-29	
29	12月 2日(2)	試験 Review	
30	12月 9日(2)	リスニング練習	
31	12月16日(2)	年度末試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		日本語	鈴木 詩郎
学 年		学 期	単位数(時間数)
実務経験		中学高等学校教諭免許を有し高等学校において国語科目教授の経験を有する	
1		前期	1(16)
授業の目的			
毎日当たり前のように使用している「日本語」を見直し、社会人・医療人として好感の持たれる日本語表現を身につける。			
行動目標			
1. 様々な人間関係や場面に応じて、適切なコミュニケーションができるような社会人としての常識を身につける。 2. 日常の生活場面を想定して実感を持って学ぶことにより、自分の言葉を見直す。 3. 漢字・語彙などの表現方法を習得する。 4. 日本語の総合的な運用能力を育成する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点及びブレテストの結果に、日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		日本語検定公式テキスト・例題集 日本語中級増補改訂版 (東京書籍)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月 9日(2)	テキスト「敬語」「漢字・語彙小テスト」(テキストp8～)	
2	4月14日(2)	テキスト「敬語」「漢字・語彙小テスト」(テキストp22～)	
3	4月21日(2)	テキスト「敬語」及び「まとめ」「漢字・語彙小テスト」	
4	4月28日(2)	テキスト「文法」「漢字・語彙小テスト」(テキストp44～)	
5	5月12日(2)	テキスト「語彙」「漢字・語彙小テスト」(テキストp76～)	
6	5月19日(2)	テキスト「意味」「漢字・語彙小テスト」(テキストp102～)	
7	5月26日(2)	テキスト「漢字」 及び「まとめ」「漢字・語彙小テスト」(テキストp138～)	
8	6月 2日(2)	「評価テスト」	

[illegible]

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		ビジネス実務	坂口 和江
実務経験		3年以上の事務職経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
1		前期	2(30)
授業の目的			
チーム医療の担い手として活躍するために、社会人としての常識を踏まえた対応を習得する。			
行動目標			
1. 社会の仕組みを理解する。 2. 社会人としての基本的マナーを身につける。 3. 円滑なコミュニケーション能力を身につける。 4. 社会人としての、言葉遣いを身につける。 5. 社会人としての基本的礼儀を身につける 6. 礼状の書き方を習得する			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		ビジネス能力検定3級ジョブパス公式テキスト2016年(日本能率協会マネジメントセンター)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月 9日(2)	専門学校生に求められるもの	
2	4月16日(2)	何のために働くの？	
3	4月23日(2)	仕事の基本となる8つの意識	
4	4月30日(2)	職場のコミュニケーション	
5	5月 7日(2)	ビジネスマナーの基本	
6	5月14日(2)	指示の受け方と報告・連絡・相談	
7	5月21日(2)	話し方の基本	
8	5月28日(2)	感じの良い言葉遣い	
9	6月 4日(2)	敬語の使い方	
10	6月11日(2)	来客応対	
11	6月18日(2)	面談の基本マナー	
12	6月25日(2)	訪問のマナー	
13	7月 2日(2)	電話応対	
14	7月 9日(2)	お礼状の書き方	
15	7月16日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		解剖組織学	島田 渉
実務経験		臨床検査技師免許を有し検査機関での勤務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
1		前・後期	2(32+2)
授業の目的			
人体の構造を機能と関連づけながら学び、ヒトの生体を理解する。また、組織発生の基本的事項を学び、さらなる理解を深める。			
行動目標			
1. 人体各部の名称・構造が理解できる。 2. 各系統別の機能・構造・種類が理解できる。 3. 組織・発生の基本的事項が理解できる。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「解剖学・組織発生学・生理学」(医歯薬出版) 人体骨格模型 色鉛筆 ファイル	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月11日(2)	解剖学で学ぶこと 細胞の構造と機能、増殖と寿命	
2	4月25日(2)	心臓の構造 体循環と肺循環	
3	5月 2日(2)	心臓の内景と大血管(スケッチ) 血管系	
4	5月 9日(2)	組織(上皮 支持 筋 神経)	
5	5月23日(2)	神経系 大脳の外景と機能局在	
6	5月30日(2)	末梢神経系(脳神経 脊髄神経 自律神経)	
7	6月 6日(2)	感覚器(眼球 耳)	
8	6月13日(2)	リンパ系	
9	6月20日(2)	骨格系(骨の機能 構造 形態 上肢骨と下肢骨 脊椎 胸郭)	
10	6月27日(2)	筋の形状と分類 体の各部位の筋	
11	7月 4日(2)	泌尿器 腎臓	
12	7月12日(2)	内分泌器官(視床下部 下垂体 甲状腺 副甲状腺)	
13	7月18日(2)	内分泌器官(副腎 膵臓 卵巣 精巣 松果体)	
14	7月25日(2)	呼吸器系(鼻腔 咽頭 喉頭 気管 気管支 肺)	
15	9月 5日(2)	消化器系(口腔 咽頭 食道 胃 小腸 大腸 直腸)	
16	9月12日(2)	消化器系(肝臓 胆嚢 膵臓)	
17	9月22日(2)	試験	

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		病理学	北島 晴比古
実務経験		歯科医師免許を有し、歯科診療所開業の実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
1		前期	1. 5(24＋2)
授業の目的			
全身の代表的病変についてそのメカニズムや病態生理を理解し、口腔病理学に繋げ、歯科臨床に役立てる。			
行動目標			
1. 病因論について理解する。 2. 遺伝性疾患について理解する。 3. 循環障害について理解する。 4. 代謝障害について理解する。 5. 増殖と修復について理解する。 6. 炎症と免疫応答異常について理解する。 7. 腫瘍について理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「病理学・口腔病理学」(医歯薬出版) プリント PC プロジェクター	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月30日(2)	病理学序論と病因論	
2	5月14日(2)	遺伝性疾患と奇形	
3	5月21日(2)	循環障害	
4	5月28日(2)	循環障害	
5	6月 4日(2)	小テスト 代謝障害と退行性病変	
6	6月11日(2)	代謝障害と退行性病変	
7	6月18日(2)	増殖と修復	
8	6月25日(2)	小テスト 炎症と免疫応答異常	
9	7月 2日(2)	炎症と免疫応答異常	
10	7月 9日(2)	腫瘍1	
11	7月16日(2)	腫瘍2	
12	7月23日(2)	まとめ	
13	7月28日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		口腔病理学	北島 晴比古
実務経験		歯科医師免許を有し、歯科診療所開業の実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
1		後期	1.5(24+2)
授業の目的			
病理学で学んだ基本的事項をベースに、口腔領域の主な疾患について理解する。			
行動目標			
口腔領域の主な疾病について、病因論・メカニズムを理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「病理学・口腔病理学」(医歯薬出版) プリント PC プロジェクター	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 3日(2)	歯の発育異常	
2	9月10日(2)	歯の損傷と着色・付着物	
3	9月17日(2)	う蝕の病院論・分類	
4	9月24日(2)	小テスト 象牙質・歯髄複合体の病変	
5	10月 1日(2)	歯周組織の病態	
6	10月 8日(2)	口腔粘膜の病変	
7	10月15日(2)	小テスト 口腔領域の嚢胞と腫瘍	
8	10月22日(2)	口腔癌	
9	10月29日(2)	顎骨の病変	
10	11月 5日(2)	小テスト 唾液腺の病変	
11	11月12日(2)	口腔領域の奇形	
12	11月19日(2)	口腔組織の加齢変化	
13	12月 8日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		微生物学・臨床検査	島田 渉
実務経験		臨床検査技師免許を有し検査機関での勤務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
1		後期	2(24+8+2=34)
授業の目的			
感染性疾患の原因である微生物について基礎的事項を学び、発症のメカニズムを理解し、予防に役立てる。			
行動目標			
1、微生物と人の共生関係について理解できる。 2、微生物の一般的性状、各微生物の特徴が理解できる。 3、臨床検査の実習を通し、微生物について実感的な理解を促し、手洗いの必要性を理解する。 4、顕微鏡観察の方法を理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「微生物学」(医歯薬出版) プリント 顕微鏡 細菌培養検査キット	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	10月 3日(2)	微生物とは？ 微生物の大きさ 耐性菌と院内感染 常在菌の役割	
2	10月10日(2)	感染(感染と感染症 不顕性感染 易感染性宿主 日和見感染 院内感染 経路感染)	
3	10月17日(2)	垂直感染 菌の形態 グラム染色	
4	10月31日(2)	菌の発育に関わる条件 外毒素と内毒素 グラム陽性球菌	
5	11月 7日(2)	グラム陽性桿菌	
6	11月14日(2)	グラム陰性桿菌	
7	11月21日(2)	感染症と毒素型 歯周病原性細菌 細菌・マイコプラズマ・リケッチア・クラミジア・ウイルスの相違点	
8	11月28日(2)	ウイルスとウイルス感染症	
9	12月 5日(2)	肝炎ウイルス	
10	12月12日(2)	免疫細胞の種類と役割	
11	1月16日(2)	液性免疫と細胞性免疫 抗体について	
12	1月21日(2)	臨床検査1(手指の細菌培養検査)	基礎
13	1月23日(2)	消毒と滅菌 培養実験観察	基礎
14	1月28日(2)	臨床検査2(生理的機能検査と検体検査 血液検査)	基礎
15	1月30日(2)	臨床検査2(顕微鏡での血液細胞観察)	基礎
16	2月 4日(2)	まとめ	
17	2月20日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		口腔微生物学(実習含む)	畔上 卓也
実務経験		歯科医師免許を有し、歯科診療所開業の実務経験を有する	
学 年	学 期		単位数(時間数)
1	後期		1(16+2)
授業の目的			
歯科2大疾患であるう蝕と歯周疾患に関連の深い口腔微生物の種類と生態及び病因論について学び、歯科治療、歯科予防処置、歯科保健指導の展開に役立てる。また、う蝕活動性試験について学び、その活用法を理解する。			
行動目標			
1. 口腔環境について理解する。 2. 口腔内の感染予防因子について理解する。 3. 口腔常在菌叢とその遷移を理解する。 4. 歯垢とその形成機序及び形成過程を説明できる。 5. う蝕とそれに関連する菌について説明できる。 6. 歯肉炎・歯周炎の種類とそれに関連する菌について説明できる。 7. 院内感染予防対策について理解する。 8. う蝕活動性試験のメカニズム・種類について理解する。 9. う蝕活動性試験結果の保健指導への展開法を学ぶ。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「微生物学」 (医歯薬出版) 口腔微生物検査器材 PC プロジェクター	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	10月10日(2)	口腔内常在微生物	
2	10月17日(2)	口腔感染症(齲蝕 歯周病 その他の口腔感染症①)	
3	10月31日(2)	口腔感染症(その他の感染症②)	
4	11月 7日(2)	化学療法	
5	11月14日(2)	院内感染対策と滅菌・消毒	
6	11月21日(2)	口腔微生物検査: 齲蝕活動性試験; RD デントバフ 唾液流出量 デントカルト カリオスタット	基礎
7	11月28日(2)	口腔微生物検査: 口腔微生物の動的観察実習	基礎
8	12月 5日(2)	まとめ	
9	12月22日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		薬理学	櫻井 浩
実務経験		薬剤師免許を有し、県職員、調剤薬局等での実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
1		後期	2(30+2)
授業の目的			
「薬とは何なのか」「なぜ効くのか」この二つの疑問について論理的に理解する。 加えて代表的な薬剤の特性を理解する。			
行動目標			
1. 薬物の作用機序を理解し、説明できる。 2. 薬物の生体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)を理解し、説明できる。 3. 各々の薬の特性を理解し、各疾患と関連付けながら理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「薬理学」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 3日(2)	薬物の定義と分類	
2	9月10日(2)	薬物の保存 作用 用量	
3	9月17日(2)	薬物の作用メカニズム 受動拡散 解離定数	
4	9月24日(2)	薬物動態、薬物投与方法	
5	10月 1日(2)	薬物の投与方法 投与方法による作用の違い 生物学的利用法 薬物耐性・依存・併用作用	
6	10月 8日(2)	薬物に影響を及ぼす要因 薬の副作用 歯科領域における薬物の副作用	
7	10月15日(2)	中枢神経系	
8	10月22日(2)	中枢神経系と薬	
9	10月29日(2)	末梢神経系と薬	
10	11月 5日(2)	高血圧治療薬 不整脈治療薬 心不全治療薬 狭心症治療薬 呼吸器系治療薬 高脂血症治療薬	
11	11月12日(2)	去痰薬 血液凝固薬 止血薬 抗血栓薬 抗貧血薬	
12	11月19日(2)	抗貧血薬 炎症及び抗炎症薬	
13	11月26日(2)	ビタミン ホルモン	
14	12月 3日(2)	代謝性疾患治療薬 感染症と薬	
15	12月10日(2)	腫瘍及び抗腫瘍薬 歯科治療薬試験	
	12月22日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		口腔衛生学	小出 浩貴
実務経験		歯科医師免許を有し、健康センター等での実務経験を有する	
学 年	学 期		単位数(時間数)
1	後期		3(48+2)
授業の目的			
口腔環境、口腔疾患の病院論・予防法等口腔衛生の基礎的事項について学び、これから展開される専門的科目の理解を促す。また、歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助の業務を展開するための知識の基礎を身につける。			
行動目標			
1. 口腔衛生の意義を認識し、歯・口腔の健康について説明できる。 2. 歯・口腔の汚れ、清掃法について理解し、保健指導の基礎とする。 3. う蝕のメカニズム及び予防法について説明できる。 4. 歯周疾患のメカニズム及び予防法について説明できる。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「保健生態学」 医歯薬出版	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 1日(4)	口腔衛生学の意義、口腔衛生学概論 歯と口腔の構造	
2	9月 8日(4)	歯と口腔の健康 歯・口腔の発生発育	
3	9月19日(4)	歯・口腔の健康 成長と発育・機能 口腔と全身の関係	
4	9月22日(4)	歯・口腔付着物・沈着物 口腔清掃 う蝕の疫学	
5	9月29日(4)	歯周疾患の疫学 その他の疾患の疫学 フッ素の性質・応用法	
6	10月 6日(4)	フッ素の応用法 歯周炎(病態～予防法)	
7	10月20日(4)	その他の疾患(口腔癌 不正咬合 顎関節症) ライフステージ毎の口腔管理	
8	11月10日(4)	復習①	
9	11月17日(4)	復習② 放射線 染色体・DNAの働き	
10	12月 1日(4)	全身と口腔の関わり その他の疾患	
11	12月 8日(4)	演習(口頭試問形式)	
12	12月15日(4)	総復習	
13	12月23日(2)	試験	

[illegible]

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		歯科臨床概論	山崎 富美子
実務経験		歯科医師免許を有し、歯科診療所開業の実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	前期	2(40+2)	
授業の目的			
歯科医療について理解すると同時に歯科衛生士の役割について理解し、歯科医療人としての自覚を促す。また歯科疾患の概要及び歯科治療の概要を理解し、その後の専門科目の理解に繋げる。			
行動目標			
1. 歯科医療の概要を理解する。 2. 歯科疾患の概要を理解する。 3. 歯科診療の流れ・概要を理解する。 4. 歯科医療における歯科衛生士の役割を理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		「歯科衛生士のための歯科臨床概論」(医歯薬出版) PC プロジェクター	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月10日(4)	歯科診療とは(臨床の場合 関わる人々 対象者) 歯科診療所(スタッフ)	
2	4月17日(4)	歯科診療所における医療安全(医療安全～インフォームドコンセント)	
3	4月24日(4)	歯科診療の流れ 歯科疾患の概要	
4	5月 1日(4)	各歯科診療のながれ; 診査・検査・前処置	
5	5月 8日(4)	各診療の流れ科; 歯科保存	
6	5月15日(4)	各科診療の流れ; 歯周治療	
7	5月22日(4)	各科診療の流れ; 歯科補綴	
8	5月29日(4)	各科診療の流れ; 口腔外科	
9	6月 5日(4)	各科診療の流れ; 小児歯科、矯正歯科	
10	6月12日(4)	各科診療の流れ; 障害者歯科、高齢者歯科	
11	6月 30日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		保存修復学	武井 賢郎
実務経験		歯科医師免許を有し、歯科診療所開業の実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	後期	2(32+2)	
授業の目的			
歯の硬組織疾患や形態異常に対する処置の目的及び修復法を学び、使用する器材及び薬剤の使用法について理解し、さらに歯科衛生士の担う役割を理解する。			
行動目標			
1. 保存療法の種類を理解し、保存修復学の意味を把握する。 2. 口腔の診査法について理解する。 3. 保存修復の概要を理解する。 4. コンポジットレジン修復について理解する。 5. セメント修復について理解する。 6. ラミネートベニア修復について理解する。 7. 鑄造歯冠修復について理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」(医歯薬出版) プロジェクター	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 3日(4)	保存療法の種類 口腔検査(歯及び歯周組織)	
2	9月10日(4)	保存修復の概要(歯の硬組織疾患の種類と病態 窩洞の構成・分類・条件)	
3	9月17日(4)	保存修復治療の概要(診療のステップ 保存修復治療の準備)	
4	9月24日(4)	直接法修復;コンポジットレジン修復	
5	10月 1日(4)	直接法修復;セメント修復	
6	10月 8日(4)	間接法修復;インレー・アンレー修復	
7	10月15日(4)	ラミネートベニア修復 合着材および接着剤	
8	10月22日(4)	保存修復における歯科衛生士の役割 直接・間接修復の流れ	
9	11月 5日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		歯内療法学	鹿熊 豊
実務経験		歯科医師免許を有し、歯科診療所開業の実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
1		後期	2(32+2)
授業の目的			
歯の硬組織疾患から継発して起こる歯髄及び根尖性歯周疾患に対する治療法を学び、使用する器材及び薬剤の使用法について理解し、さらに歯科衛生士の担う役割を理解する。			
行動目標			
1. 歯の保存療法の種類について理解する。 2. 歯内療法と歯科衛生士の関わり方について考える。 3. 歯髄の保存療法について理解する。 4. 歯髄の除去療法について理解する。 5. 根管治療・根管充填について理解する。 6. 歯内療法の各治療の流れ、器材、薬剤について理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「保存修復・歯内療法」(医歯薬出版) 歯内療法用器具器材 プロジェクター	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	12月 3日(4)	歯内療法の概要(歯内疾患の概要と原因 歯髄疾患・根尖性歯周疾患の分類・症状、処置)	
2	12月10日(4)	歯髄保存療法 歯髄除去療法	
3	1月 7日(4)	根管治療	
4	1月14日(4)	根管充填	
5	1月21日(4)	外科的歯内療法 歯の外傷	
6	1月28日(4)	歯内療法における安全対策 ホワイトニング	
7	2月 4日(4)	歯内療法における歯科衛生士の役割、実習	基礎 ユニット
8	2月18日(4)	まとめ	
9	2月24日(2)	試験	

[illegible]

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		う蝕予防処置	笠井 宏二
実務経験		歯科医師免許を有し、歯科診療所開業の実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数
1		後期	1(12+2)
授業の目的			
フッ化物による齲蝕予防法について基本的事項を理解し、技術の習得に繋げる。			
行動目標			
1. フッ化物についての基本的知識を学び、各う蝕予防処置法の効果・メカニズム・施術法を理解する。 2. フッ化ジアンミン銀、小窩裂溝填塞法についての基本的事項を理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		「歯科衛生士のためのう蝕予防処置法」(医歯薬出版) プロジェクター	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	12月 4日(4)	フッ化物によるう蝕予防(予防効果、方法、種類、管理方法)	
2	12月11日(4)	フッ化物によるう蝕予防(中毒量の計算、メンテナンス)	
3	12月18日(4)	硝酸銀(フッ化ジアンミン銀)塗布法 小窩裂溝填塞法	
4	2月19日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		う蝕予防処置Ⅰ	高地 亜弥
実務経験		歯科衛生士免許を有し、歯科診療所での実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
1		後期	1(26+2=28)
授業の目的			
う蝕予防の知識を身につけ、う蝕予防処置法を習得する。			
行動目標			
1. う蝕発生とう蝕予防処置の関係性を述べることができる。 2. フッ素の性状・代謝・毒性を理解する。 3. う蝕活動性試験の内容を述べることができる。 4. フッ化物塗布を行うことができる。 5. フッ化ジアミン銀塗布を行うことができる。 6. 小窩裂溝予防填塞を行うことができる。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		「歯科衛生士のためのう蝕予防処置法」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	1月 6日(4)	カリエスの発生機序・フッ化物とは 教室	
2	1月13日(4)	フッ素の性状・代謝・毒性安全量の算出 フッ化物歯面塗布法について 教室	
3	1月20日(4)	フッ化ジアミン銀塗布法について フッ化ジアミン銀基礎実習 基礎	
4	1月29日(4)	フッ化物溶液基礎実習 / フッ化物配合歯磨剤について 基礎	
5	2月 3日(4)	フッ化物・フッ化ジアミン銀塗布相互実習 ユニット	
6	2月 4日(2)	フッ化物洗口法について・フッ化物洗口実習 基礎	
7	2月10日(4)	小窩裂溝填塞の基礎知識・模型実習 / 齲蝕予防処置まとめ復習 基礎	
8	2月19日(2)	試験 基礎	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		歯周病予防処置Ⅰ	高地 亜弥
実務経験		歯科衛生士免許を有し、歯科診療所等での実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
1		前期	1(62)
授業の目的			
疾病予防、健康増進に果たす歯科予防処置の効果を十分認識し、効果的な施術を行うための基礎的な知識と技術を習得する。			
行動目標			
1. 歯石除去の流れをイメージできる。 2. 歯石除去に際しての位置関係を習得する。 3. ミラーテクニックを習得する。 4. 歯石除去に際しての観察法を理解する。 5. 歯石沈着状態の把握ができる。(エクスプローイング) 6. 歯周ポケット観察法を習得する。(プロービング)			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に実習の実技評価も加味し、総合的に評価する。 (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月9日(2)	1年次の授業の流れ/身だしなみ/器具確認 223	
2	4月14日(4)	歯石除去とは/基礎知識(歯・歯周組織)/マネキンの扱い法/位置関係 基礎	
3	4月24日(4)	ミラー基本操作法/上下顎操作法 基礎	
4	5月1日(4)	スケーリングの流れ/基礎知識(付着物・沈着物)/探針基本的操作法(把持法運動) 223	
5	5月7日(2)	探針基本的操作法 基礎	
6	5月13日(2)	探針部位別操作法 基礎	
7	5月23日(2)	探針部位別操作法 基礎	
8	5月27日(2)	探針部位別操作法 基礎	
9	5月30日(2)	探針部位別操作法 基礎	
10	6月3日(2)	探針部位別操作法 基礎	
11	6月6日(2)	プロービング目的/基本操作法/プロービング部位別操作法 基礎	
12	6月10日(2)	プロービング部位別操作法 基礎	
13	6月17日(2)	プロービング部位別操作法 基礎	
14	6月20日(4)	プロービング部位別操作法 基礎	
15	6月24日(2)	プロービング部位別操作法 基礎	
16	6月26日(2)	プロービング部位別操作法 基礎	
17	6月27日(2)	プロービング部位別操作法 基礎	
18	6月30日(4)	プロービング部位別操作法/探針基本操作・プロービング復習/相互実習オリ 基礎	
19	7月10日(4)	口腔診査相互実習1(エクスプローリング) ユニット	
20	7月11日(2)	口腔診査相互実習1・2(エクスプローリング) ユニット	
21	7月15日(2)	口腔診査相互実習2(プロービング) ユニット	
22	7月17日(4)	口腔診査相互実習3(プロービング) ユニット	
23	7月24日(4)	口腔診査相互実習3(プロービング) ユニット	

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	歯周病予防処置 I	高地 亜弥
学 年	学 期	単位数(時間数)
1	後期	2(100+2=102)
授業の目的		
疾病予防、健康増進に果たす歯科予防処置の効果を十分認識し、効果的な施術を行うための基礎的な知識と技術を習得する。		
行動目標		
1. シックルスケーラー・キュレットスケーラーの操作法を習得する。 2. 歯石除去に際しての観察法を習得する。 3. 歯石沈着状態の把握ができる。(エキスプローリング) 4. 歯周ポケット観察法を習得する。(プロービング) 5. 歯面研磨(ポリッシング)のテクニックを習得する。 6. シックルスケーラー・キュレットスケーラーのシャープニング法を習得する。		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験の得点に実習の実技評価も加味し、総合的に評価する。 (60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書		
最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)		
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	9月 1日(2)	前期復習 スケーラーの名称・用途・種類 基礎
2	9月 5日(2)	シックルスケーラーの基本的操作法・模型実習/シックルスケーラー マネキン実習 基礎
3	9月11日(4)	シックルスケーラー マネキン実習 基礎
4	9月19日(2)	シックルスケーラー マネキン実習 基礎
5	9月25日(4)	シックルスケーラー マネキン実習 基礎
6	10月 3日(4)	キュレットスケーラーの基本的操作法・模型実習 基礎
7	10月 9日(4)	キュレットスケーラー マネキン実習 基礎
8	10月14日(2)	キュレットスケーラー マネキン実習 基礎
9	10月16日(2)	キュレットスケーラー マネキン実習 基礎
10	10月23日(4)	キュレットスケーラー マネキン実習 基礎
11	10月30日(4)	マネキン評価 基礎
12	10月31日(2)	マネキン実習 総復習 基礎
13	11月 5日(2)	マネキン実習 総復習 基礎
14	11月13日(4)	スケーリング マネキン実習総復習/ シャープニング法 / 相互実習オリ 基礎
15	11月14日(2)	スケーリング 相互実習(口腔診査 上下顎前歯部) ユニット
16	11月20日(4)	スケーリング 相互実習(口腔診査 上下顎前歯部) ユニット
17	11月27日(4)	スケーリング 相互実習(上顎前歯) ユニット
18	12月 4日(4)	スケーリング 相互実習(上顎前歯) ユニット
19	12月11日(4)	スケーリング 相互実習(下顎前歯) ユニット
20	12月12日(2)	スケーリング 相互実習(下顎前歯) ユニット
21	12月17日(6)	スケーリング 相互実習(下顎前歯) ユニット
22	1月15日(4)	PMTCの基礎知識 模型実習 基礎
23	1月22日(4)	PMTC相互実習 ユニット
24	1月27日(4)	PMTC相互実習 ユニット
25	2月 2日(6)	相互実習 / 総復習 ユニット
26	2月 9日(4)	相互実習 / 総復習 ユニット
27	2月13日(4)	相互実習 / 総復習 ユニット
28	2月17日(6)	総復習 評価 ユニット
29	2月24日(2)	試験

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		歯科保健指導Ⅰ	呉羽かおり
実務経験		歯科衛生士免許、専任教員認定歯科衛生士資格を有し、歯科診療所での実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
1		前期	1(52)
授業の目的			
多様化するニーズに対応した歯科保健指導を行えるよう、専門知識と技術及びカウンセリング能力を身につける。			
行動目標			
1. 歯科保健指導の概要を理解する。 2. 口腔の基礎知識を理解する。 3. 口腔の観察法を習得する。 4. 自身の口腔清掃法を習得する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び実技・演習等を加味し総合的に評価する。 (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論 歯科保健指導」 「歯肉を見る・歯肉を読む」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月11日(2)	歯科保健指導総論	
2	4月17日(2)	健康の概念 予防の概念	
3	4月21日(4)	口腔の基礎知識	
4	4月30日(2)	口腔の基礎知識	
5	5月 9日(2)	口腔の観察(初期病変の理解)	
6	5月13日(2)	口腔の観察(初期病変の理解)	
7	5月20日(2)	プラークの観察と表現方法	
8	5月30日(2)	プラークの観察と表現方法	
9	6月6日(2)	プラーク観察基礎実習 実習オリ	基礎
10	6月13日(4)	プラーク観察相互実習1	ユニット
11	6月17日(2)	プラーク観察実習振り返り	基礎
12	6月19日(4)	プラーク観察相互実習2	ユニット
13	6月27日(4)	歯肉の観察と表現方法 口腔観察相互実習オリ	
14	7月 4日(4)	口腔観察相互実習1	ユニット
15	7月11日(4)	口腔観察相互実習振り返り ブラッシング方法	基礎
16	7月14日(4)	口腔観察相互実習2	ユニット
17	7月18日(2)	口腔観察相互実習振り返り ブラッシング方法	基礎
18	7月22日(2)	ブラッシング方法	基礎
19	7月23日(2)	ブラッシング方法 前期まとめ	基礎

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		歯科保健指導Ⅰ	呉羽かおり
学 年		学 期	単位数(時間数)
1		後期	2(88+2=90)
授業の目的			
多様化するニーズに対応した歯科保健指導をおこなうために、専門知識と技術を身につける。			
行動目標			
1. 口腔清掃法を習得する。 2. 自身の口腔管理ができる。 3. 保健指導実施のための基礎知識を身につける。 4. 歯科衛生過程の進め方を理解する。 5. 歯科衛生アセスメントの情報収集について理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び実技・演習等を加味し総合的に評価する。 (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論 歯科保健指導」 「歯肉を見る・歯肉を読む」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月2日(2)	前期復習 口腔清掃法(手用歯ブラシを用いたブラッシング方法の知識)	基礎
2	9月12日(2)	口腔清掃法(手用歯ブラシを用いたブラッシング方法の知識)	
3	9月19日(2)	口腔清掃法(手用歯ブラシを用いたブラッシング方法の知識) 100%磨き実習オリ	基礎
4	9月26日(2)	口腔清掃法(手用歯ブラシを用いたブラッシング方法の知識) 100%磨き実習オリ	
5	10月2日(4)	100%磨き実習1	ユニット
6	10月10日(2)	口腔清掃法 (100%磨き実習振り返り)	基礎
7	10月16日(2)	口腔清掃法(手用歯ブラシを用いたブラッシング方法の知識)	基礎
8	10月17日(2)	口腔清掃法(手用歯ブラシを用いたブラッシング方法の知識)	基礎
9	10月21日(2)	口腔清掃法(補助清掃用具を用いた口腔清掃法の知識)	基礎
10	10月24日(8)	卒業研究発表会	
11	10月27日(2)	卒業研究発表会振り返り	
12	10月29日(2)	口腔清掃法(超音波歯ブラシを用いた口腔清掃法) 口腔清掃法(歯磨剤 洗口法)	基礎
13	11月6日(4)	100%磨き実習2	ユニット
14	11月12日(4)	口腔清掃法 (100%磨き実習振り返り) まとめ	基礎
15	11月19日(4)	歯科保健指導実施のための基礎知識	
16	11月26日(4)	歯科保健指導実施のための基礎知識 歯科衛生過程の進め方	
17	12月3日(2)	歯科衛生アセスメント(情報収集)	
18	12月10日(2)	歯科衛生アセスメント(情報収集) 歯科衛生アセスメント(う蝕活動性試験の活用法)	
19	12月12日(2)	歯科衛生アセスメント(情報処理)	
20	12月18日(4)	歯科衛生アセスメント(口腔内写真基礎知識)(カメラの取り扱い)	基礎
21	12月19日(2)	歯科衛生アセスメント(口腔内写真撮影基礎実習)	基礎
22	1月8日(4)	歯科衛生過程(アセスメント)まとめ ライフステージの理解	
23	1月16日(4)	青年期の基礎知識	
24	1月21日(2)	青年期の基礎知識	
25	1月23日(2)	妊産婦期の基礎知識	
26	1月30日(4)	妊産婦期の基礎知識	
27	2月6日(4)	乳幼児婦期の基礎知識	
28	2月10日(2)	乳幼児婦期の基礎知識	
29	2月12日(2)	妊産婦期・乳幼児期の歯科保健指導	
30	2月18日(4)	乳幼児期の歯科保健指導 まとめ	
31	2月25日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		栄養指導Ⅰ	伊藤 志織
実務経験		管理栄養士の資格を有し、栄養士としての実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	後期	2(30+2)	
授業の目的			
健康は様々な栄養素が相互に関係し保たれている事を認識し、栄養に関する基礎的事項を身につけ、各ステージにおける栄養指導のポイントを理解する。			
行動目標			
1. 現在の食生活の実態把握し、食を取巻く問題点について理解する。 2. 栄養素の消化吸収のメカニズムを理解する。 3. 食事摂取基準について理解する。 4. 各栄養素について基本的事項を理解する。 5. 食生活とう蝕・咀嚼の関連性を理解する。 6. 食品の栄養学的特徴を理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「栄養と代謝」(医歯薬出版) プリント 新ビジュアル食品成分表 食品解説つき	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月26日(2)	栄養学を学ぶ目的・意識 栄養の基礎知識 自分の食生活診断	
2	10月 3日(2)	栄養素の消化吸収	
3	10月10日(2)	栄養素の役割 鉄の吸収 食事摂取基準	
4	10月17日(2)	食事摂取基準 摂取エネルギーを知る	
5	10月31日(2)	食事摂取基準 栄養素の働き	
6	11月 7日(2)	糖質の種類 食品との関わり タンパク質の栄養的意味	
7	11月14日(2)	タンパク質	
8	11月21日(2)	脂質	
9	11月28日(2)	ビタミン	
10	12月 5日(2)	ミネラル	
11	12月12日(2)	ミネラル 水分の栄養的意味	
12	12月19日(2)	食物繊維	
13	1月16日(2)	咀嚼と食生活 う蝕と食生活	
14	1月23日(2)	甘味食品の摂取法	
15	1月30日(2)	食品の栄養学的特徴	
16	2月13日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		歯科診療補助Ⅰ	小島 香織
実務経験		歯科衛生士免許、専任教員・歯周病認定歯科衛生士資格を有し、歯科診療所での実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
1		前期	3(64)
授業の目的			
歯科診療補助業務を理解し、実践するための知識と技術を習得する。			
行動目標			
1. 歯科診療補助の法的位置づけを説明し、内容を述べることができる。 2. 歯科医院の診療の流れを理解する。 3. 医療安全の意味を理解する。 4. 共同動作(ポジショニング、パキュームテクニック、ライティング、受け渡し)を理解し、口腔洗浄ができる。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」 歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論 歯科機器」 歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論 歯科材料」 「デンタルスタッフのクリニカルマナー」 (医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)		
1	4月 9日(2)	歯科診療補助の法的位置づけ 歯科診療所でのマナー 歯科医院の診療の流れ 歯科衛生士の役割	
2	4月10日(2)	歯科診療所でのマナー 歯科医院の診療の流れ 歯科衛生士の役割	
3	4月15日(2)	歯科診療所でのマナー 歯科医院の診療の流れ 歯科衛生士の役割	
4	4月16日(2)	歯科診療所でのマナー 歯科医院の診療の流れ 歯科衛生士の役割	
5	4月22日(2)	医療安全と感染予防対策 基礎	
6	4月23日(2)	滅菌と消毒	
7	5月 2日(4)	滅菌と消毒 手指消毒・グローブの着脱実習 基礎・ユニット	
8	5月 8日(2)	歯科診療室の基礎知識 基礎	
9	5月12日(2)	歯科診療室の基礎知識 基礎・ユニット	
10	5月19日(4)	診療室の機械器具取扱い実習 実習室マニュアル 基礎・ユニット	
11	5月26日(4)	診療室の機械器具取扱い実習 実習室マニュアル 基礎・ユニット	
12	6月 2日(4)	診療室の機械器具取扱い実習 実習室マニュアル 共同動作の基礎知識 基礎・ユニット	
13	6月 9日(4)	共同動作の基礎知識(概念 ポジショニング ライティング 受渡し パキューム・3way操作) ユニット	
14	6月16日(4)	共同動作の基礎知識(概念 ポジショニング ライティング 受渡し パキューム・3way操作) ユニット	
15	6月20日(2)	共同動作相互実習 ユニット	
16	6月23日(4)	共同動作相互実習 ユニット	
17	6月26日(2)	共同動作相互実習 ユニット	
18	7月 3日(4)	共同動作相互実習 ユニット	
19	7月 7日(4)	共同動作相互実習 総合実習 ユニット	
20	7月18日(4)	共同動作 総合実習 ユニット	
21	7月24日(4)	前期まとめ 基礎	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		歯科診療補助Ⅰ	小島 香織
1		後期	3(94+2=96)
授業の目的			
歯科診療補助業務を理解し、実践するための知識と技術を習得をする。			
行動目標			
1. 主要歯科材料を取り扱うことができる。 2. 診査項目が理解できる 3. 保存修復の処置流れを説明できる。 4. 歯内療法の処置流れを説明できる。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 歯科機器」 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 歯科材料」 「デンタルスタッフのクリニカルマナー」 (医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 5日(2)	前期復習 基礎	
2	9月 8日(2)	主要歯科材料の種類と取扱い法(歯科材料の基礎知識・印象材) 基礎	
3	9月 9日(2)	主要歯科材料の種類と取扱い法(歯科材料の基礎知識・印象材) 基礎	
4	9月16日(2)	主要歯科材料の種類と取扱い法(歯科材料の基礎知識・印象材) 基礎	
5	9月26日(2)	アルジネート印象材取扱い法 基礎	
6	9月29日(2)	アルジネート印象材取扱い法 基礎	
7	9月30日(2)	アルジネート印象材取扱い法 基礎	
8	10月 7日(2)	アルジネート印象材取扱い法 基礎	
9	10月16日(4)	アルジネート印象材取扱い法 仮封材とは 種類と特徴 基礎	
10	10月23日(4)	仮封材の取扱い法 基礎	
11	10月27日(4)	仮封材の取扱い法 合着材とは 種類と特徴 基礎	
12	10月29日(2)	合着材の取扱い法 基礎	
13	11月 7日(2)	合着材の取扱い法 基礎	
14	11月10日(4)	診査基礎知識	
15	11月17日(4)	診査基礎知識 硬組織診査相互実習① ユニット	
16	11月21日(2)	硬組織診査相互実習 ユニット	
17	11月26日(2)	硬組織診査相互実習 ユニット	
18	11月27日(2)	硬組織診査相互実習 ユニット	
19	11月28日(2)	硬組織診査相互実習 ユニット	
20	12月 1日(2)	硬組織診査相互実習 ユニット	
21	12月 5日(2)	診査まとめ 基礎	
22	12月 8日(2)	保存修復の処置流れ 直接修復法とは 直接修復法の流れ 使用材料 基礎	
23	12月15日(4)	直接修復法とは 直接修復法の流れ 使用材料 基礎	
24	12月19日(2)	直接修復法とは 直接修復法の流れ 使用材料 基礎	
25	1月 6日(4)	直接修復法とは 直接修復法の流れ 使用材料 間接修復法とは 間接修復法の流れ 使用材料 基礎	
26	1月19日(4)	間接修復法とは 間接修復法の流れ 使用材料 基礎	
27	1月26日(4)	間接修復法とは 間接修復法の流れ 使用材料 歯内療法の処置流れ 歯髄保存療法とは 歯髄保存療法の流れ 使用材料 基礎	
28	1月28日(2)	歯髄保存療法とは 歯髄保存療法の流れ 使用材料 基礎	
29	2月 2日(2)	歯髄除去療法とは 歯髄除去療法の流れ 使用材料 基礎	
30	2月 5日(4)	歯髄除去療法とは 歯髄除去療法の流れ 使用材料 基礎	
31	2月 6日(2)	感染根管治療とは 感染根管治療の流れ 使用材料 基礎	
32	2月 9日(4)	感染根管治療の流れ 使用材料 基礎	
33	2月12日(2)	感染根管治療の流れ 使用材料 基礎	
34	2月16日(6)	まとめ 復習 基礎	
35	2月25日(2)	試験	

[illegible]

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		情報処理 I	小野 恵子
実務経験		サーティファイWord文書処理技能認定資格を有し、企業にて事務、HP作成管理、システム開発等の実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
1		後期	1(30)
授業の目的			
現在の情報化社会において歯科衛生士業務を展開するにあたってのパソコン操作の基本的事項を身につけ、業務記録、患者管理、研究、症例発表等に活かす。			
行動目標			
1. タッチタイピングの習得と、Word2013の操作方法をマスターし、一般的な書類が作成できる。 2. PowerPoint2013を使用して、簡単なプレゼンテーション資料を作成する。			
成績評価・検定			
Word講義終了時に行う試験(60分テキスト使用可)の得点に、PowerPoint講義終了時に行うプレゼンテーションの得点を10%、授業態度等を10%以内で加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		完全マスターWord 2019練習問題全308(noa出版) 30時間でマスタープレゼンテーション+パワーポイント2019(実教出版)	USBメモリー 201教室
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 2日(2)	Word; 起動・終了 文字の入力と変換 タッチタイピング	
2	9月 9日(2)	文書の作成 文書の装飾	
3	9月16日(2)	ビジネス文書①	
4	9月30日(2)	ビジネス文書②	
5	10月 7日(2)	ビジネス文書③	
6	10月14日(2)	文書の利用方法 文書作成に便利な機能	
7	10月21日(2)	グラフィックの挿入	
8	10月28日(2)	復習と確認	
9	11月 4日(2)	Wordテスト	
10	11月11日(2)	Wordテスト解説 プレゼンテーションとは PowerPointの基本操作	
11	11月18日(2)	Power Pointの特徴的な機能	
12	11月25日(2)	PowerPointを使用した資料作成①	
13	12月 2日(2)	PowerPointを使用した資料作成②	
14	12月 9日(2)	プレゼンテーション	
15	12月16日(2)	プレゼンテーション	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		コミュニケーションⅠ	野村 恵美
実務経験		メディア出演や執筆、イベント司会などを通じて、日頃から「聴く」「伝える」「関わる」ことに向き合う現役フリーアナウンサー。EQGA公認プロファイラー。	
学 年		学 期	単位数(時間数)
1		前・後期	2(40)
到達目標			
歯科衛生士は、歯科医師へのサポートや患者への様々なアドバイスを行うために、「コミュニケーション能力」が不可欠です。また、チーム医療の一員として、他の医療専門職の皆さんときめ細かく連携協力していくためにも、本授業では「EQ」理論をベースに、自己のコミュニケーション能力の現状を受け止め、歯科衛生士として目指すべき能力開発の方向を理解し、実践していくための知識、手法などを習得します。			
行動目標			
1. EQ理論に基づき、コミュニケーション能力の基本を学び、その基盤となる自己分析や他者理解のための態度を学ぶ 2. 「コミュニケーション能力」を高めるための具体的な手法を学び実践する			
成績評価・検定			
期末課題レポート(90%以内)授業態度等(10%以内)で加味し評価する。 (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		1.レジューメ 2. EQIアセスメント	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月14日(2)	オリエンテーション(自己紹介、授業の主題、進め方など)	
2	4月21日(2)	「コミュニケーション能力とは何か」	
3	4月28日(2)	「EQI」受験	
4	5月12日(2)	「コミュニケーションと感情の関わり」	
5	5月19日(2)	「EQとは何か」	
6	5月26日(2)	「EQIの結果フィードバック～自己概念の理解」	
7	6月 2日(2)	「EQによる自己分析～強みと課題の抽出」	
8	6月 9日(2)	「EQIの自己分析～心内知性(私の内なる感情)」	
9	6月16日(2)	「EQIの自己分析～対人関係知性(あなたに向かう感情)」	
10	6月23日(2)	「EQIの自己分析～状況判断知性(みんなの中の私の感情)」	
11	6月30日(2)	「職場実習の準備～知識の実践科に向けて」	
12	7月 7日(2)	「職場実習の準備～不安と緊張のメカニズム」	
13	7月14日(2)	「経験学習としての職場実習の振り返り」	
14	9月 1日(2)	「コミュニケーションスキル～言語コミュニケーション」	
15	9月 8日(2)	「コミュニケーションスキル～非言語コミュニケーション」	
16	9月22日(2)	「仕事の現場のコミュニケーション」	
17	9月29日(2)	「働きながら大切にしてほしいこと」	
18	10月 6日(2)	「EQ開発カレンダー作成」	
19	10月20日(2)	「コミュニケーションⅠ」の振り返り	
20	10月27日(2)	期末課題レポート作成・提出	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		アロマセラピー	飯田泰子
実務経験		アロマコーディネーターインストラクター資格を有し、アロマショップ経営の実経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	後期	1(32)	
授業の目的			
医療の担い手として「健康」の大切さを認識し、それを持続するためには心身双方のケアが大切であることを充分自覚し、そこにアロマセラピーなどの自然療法が西洋医学の補助となることを理解する。またアロマセラピーを通して「人を思いやる心、癒せる心」「自然環境」を大切に思う心を育てる。			
行動目標			
1. 精油の基本知識を踏まえたうえでの基本的扱いができる。 2. 精油の全身に及ぼす影響を理解し病気の予防に繋げる。 3. 演習をとおり、精油の効果を実感する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・材料当		精油テキスト レッスンテキスト レッスン用資材 実習用精油等(共有)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	10月28日(2)	アロマセラピー概論	手浴
2	11月 4日(2)	精油の抽出法	ボディーシャンプー
3	11月11日(2)	香織の歴史	
4	11月18日(2)	精油のブレンド法	トリートメントオイル
5	11月25日(2)	精油の体への影響	トリートメント実技
6	12月 2日(2)	精油の脳への影響	
7	12月 9日(2)	精油の心理作用	エアーフレッシュナー
8	12月16日(2)	アロマの実践と法令	クレイパック
9	1月13日(4)	精油の成分	
10	1月20日(4)	呼吸器のケア 消化器のケア	マウスフオッシュ
11	1月27日(4)	循環器のケア 免疫力と病気の予防	バスソルト 蜜ろうクリーム
12	2月 3日(4)	理解力試験 皮膚へのケア	ローション

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		臨地臨床実習Ⅰ	高地 亜弥
実務経験		歯科衛生士免許を有し、歯科診療所等での実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
1		前期	1(40+6=46)
授業の目的			
歯科医療の現場を体験することにより歯科衛生士の職に対するイメージを確立し、医療人を目指す者としての意識の高揚を図り、今後の学習に繋げる			
行動目標			
1. 歯科医院での一日の流れを把握し、歯科衛生士の業務を理解する。 2. 歯科治療に対する理解を深め、その後の学習の理解を促す。 3. 医療人に求められる素養について理解し、自分の行動を振り返り、その後の学校生活での実践に繋げる。			
成績評価・検定			
実習記録及びまとめ、報告会で理解度を確認し、評価に替える。			
教科書・材料当			
週	月日(時間数)	授 業 内 容	
14	7月 1・4日(4)	実習オリエンテーション	
15	7月7・8日(4)	実習準備	
16	7月14日(2)	実習準備	
17	7月22・25日(6)	実習準備	
18	7月31日～8月6日(40)	歯科診療所実習	
22	8月28日(6)	実習まとめ報告会	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		衛生学・地域保健学	宮島 有果
実務経験			
学 年			単位数(時間数)
2		前期・後期	2(30+2)
授業の目的			
健康と疾病のとらえ方、健康の保持増進法、疾病予防法について学び、地域保健活動の基礎的知識を身につける。			
行動目標			
1. 衛生学の基本的事項について理解し、広い視野から地域保健活動を捉えることができる。 2. 人口動態に関する基本的事項が理解できる。 3. 環境保全に関する基本的事項が理解できる。 4. 疫学に関する基本的事項が理解できる。 5. 感染症に関する基本的事項が理解できる。 6. 食品衛生に関する基本的事項が理解できる。 7. 母子保健に関する基本的事項が理解できる。 8. 学校保健に関する基本的事項が理解できる。 9. 成人・老人保健に関する基本的事項が理解できる。 10. 産業保健に関する基本的事項が理解できる。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「保健生態学」「保健情報統計学」	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月11日(2)	総論(定義 健康の概念 ヘルスプロモーション)	
2	4月15日(2)	疫学(定義 概要 方法)	
3	4月22日(2)	人口に関する統計 人口動態調査 生命表	
4	5月 1日(2)	健康と環境(概念 環境と健康)	
5	5月 8日(2)	健康と環境(概念 環境と健康)	
6	5月13日(2)	感染症 (感染と発病 感染の三大要因 感染予防 おもな感染症の動向と予防)	
7	5月19日(2)	食品と健康(食品保健 栄養と健康)	
8	5月29日(2)	地域保健・公衆衛生(概念 活動の進め方)	
9	6月 3日(2)	母子保健(意義・保健統計・母性保健管理・小児保健管理・母子保健対策)	
10	6月13日(2)	学校保健(意義・活動と組織 学校保健活動の推進 食育)	
11	6月26日(2)	成人保健(現状・保健活動)健康活動と公衆衛生	
12	7月 3日(2)	産業保健(概念 職業性疫病 産業保健管理 産業保健活動)	
13	7月10日(2)	老人(高齢者)保健(概念 職業性疫病 産業保健管理 産業保健活動)	
14	7月14日(2)	精神保健(意義・分類・心の健康と障害 ライフサイクル 精神保健対策)	
15	9月 5日(2)	災害時の歯科保健(大規模災害時の保健医療対策)	
16	9月16日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		地域歯科保健学	小出 浩貴
実務経験		歯科医師免許を有し、健康センター等での実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)	
2	前期	3(48+2)	
授業の目的			
口腔衛生学の基礎知識を基に地域歯科保健について学び、広い視野から総合的に物事を捉え、歯科衛生過程に沿った歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助、口腔ケア等の業務展開に繋げる。			
行動目標			
1. 地域歯科保健活動について理解する。 2. 地域歯科保健における歯科衛生士の役割を理解する。 3. 歯科衛生統計の基礎的事項を理解する。 4. 歯科衛生統計の指標について理解し、活用できる。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「保健生態学」「保健情報統計学」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月14日(4)	地域保健の全体像 関連法令	
2	4月21日(4)	地域歯科保健総論 母子歯科保健	
3	4月28日(4)	成人・老人歯科保健 産業歯科保健 介護保険と健康保険の違い	
4	5月12日(4)	統計学各論 データとグラフ 情報取扱い上の注意点	
5	5月19日(4)	産業保健・産業歯科保健 保健情報統計(情報)	
6	5月26日(4)	保健情報統計(疫学) 摂食嚥下のスクリーニングテスト	
7	6月 2日(4)	保健情報統計(統計学)	
8	6月 9日(4)	CPI(CPITN)復習 母子保健・学校保健・成人保健・老人保健	
9	6月16日(4)	保健情報統計(復習) 国民衛生の動向 歯科で用いる指数	
10	6月23日(4)	演習問題(口頭試問形式)	
11	6月30日(4)	まとめ	
12	7月 7日(4)	衛生学と口腔衛生学の違い	
13	7月23日(2)	試験	

[illegible]

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		社会福祉	田中 ゆう子
実務経験		保健師・助産師の免許を有し、保健師助産師養成校等での実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)	
2	後期	1(14+2)	
授業の目的			
急速に変化する社会保障・福祉制度について理解を深め、社会のニーズをふまえた対応をする為の基礎知識を習得する。			
行動目標			
1. 各対象に対する社会保障・福祉制度の概要を理解する。 2. 社会福祉分野での歯科衛生士業務の実態を理解する。 3. 介護・福祉の対象となる方について理解を深め対応法を学ぶ。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「保健 医療 福祉の制度」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	10月 8日(2)	社会保障とは 喪失体験	
2	10月15日(2)	社会保険制度 コミュニケーション技術(ロールプレ)	
3	10月22日(2)	医療保険制度 コミュニケーション技術(ロールプレ)	
4	10月29日(2)	介護保険制度概要 小規模多機能型施設DVD視聴	
5	11月 5日(2)	介護保険制度(認定 専門職) 年金保険制度 認知症高齢者と家族DVD視聴「ハルさんの物語」	
6	11月12日(2)	労働保険制度 社会福祉(福祉六法～生活保護) 認知症高齢者と家族DVD視聴「ハルさんの物語第2部」	
7	11月19日(2)	児童と家庭の福祉制度と法規 障害者自立支援法 障害者差別解消法 老人福祉法 認知症啓発DVD 「一人の心を見つめるケア」	
8	12月 8日(2)	試験	

[illegible]

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		歯科補綴学	中澤 高志
実務経験		歯科医師免許を有し、歯科診療所開業の実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
2		前期	2(32+2)
授業の目的			
欠損補綴の治療法について理解し、歯科衛生士の担う役割を理解する。			
行動目標			
1. 歯科補綴治療に関する基礎知識を理解する。 2. 歯の欠損と補綴治療について理解する。 3. 補綴治療における診査法について理解する。 4. クラウン・ブリッジの治療法について理解する。 5. 有床義歯治療法について理解する。 6. インプラント治療法について理解する。 7. 補綴歯科治療における歯科衛生士の役割について理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「歯科補綴」(医歯薬出版) 補綴用器材 プロジェクター	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	5月29日(4)	補綴学総論 補綴歯科治療の基礎知識	
2	6月 5日(4)	歯の欠損に伴う障害と補綴治療	
3	6月12日(4)	クラウンブリッジ臨床	
4	6月19日(4)	有床義歯臨床	
5	6月26日(4)	有床義歯臨床(精密印象 筋圧形成 咬合採得 ゴシックアーチ フェイスボートランスファー)	
6	7月 3日(4)	補綴治療に使用される器材 補綴歯科治療における歯科技工操作(クラウンのの製作過程 総義歯の製作過程)	
7	7月10日(4)	補綴物の修理 インプラント 補綴歯科治療における口腔衛生指導 滅菌消毒 歯科技工士との関わり	
8	7月17日(4)	まとめ	
9	7月23日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		口腔外科学・歯科麻酔学	横林 敏夫
実務経験		歯科医師免許を有し、総合病院口腔外科部長としての実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
2		前期	2(34+2)
授業の目的			
口腔外科領域における主な疾病について病態・治療法を理解するとともに、全身疾患との関連性についても理解を深め、口腔外科における歯科衛生士の役割を理解する。			
行動目標			
1. 口腔外科領域の主な疾患について理解する。 2. 口腔外科治療の流れを理解する。 3. 口腔外科小手術について理解する。 4. 歯科口腔外科領域の麻酔について理解する。 5. 救急蘇生法について理解する。 6. 滅菌と消毒について基礎的知識を身につけ対応できる。 7. 口腔外科領域で使用する器材・薬剤について概要を理解できる。 8. 歯科麻酔学、救急蘇生法の概要を理解する。 9. 口腔外科における歯科衛生士の役割を理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「口腔外科・麻酔学」(医歯薬出版) PC プロジェクター	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月11日(2)	口腔領域の発育異常と奇形変形	
2	4月15日(2)	口腔領域の発育異常	
3	4月22日(2)	口腔領域の損傷	
4	5月 2日(2)	口腔粘膜疾患	
5	5月 9日(2)	口腔領域の炎症	
6	5月13日(2)	口腔領域の嚢胞―顎骨内に発生する嚢胞	
7	5月20日(2)	口腔領域の嚢胞―軟組織に発生する嚢胞	
8	5月27日(2)	口腔領域の腫瘍―軟組織に発生する良性腫瘍	
9	6月 3日(2)	口腔領域の腫瘍―悪性腫瘍 腫瘍類似疾患	
10	6月10日(2)	顎関節疾患	
11	6月17日(2)	唾液腺疾患	
12	6月24日(2)	口腔領域の神経性疾患	
13	6月27日(2)	血液疾患 口腔外科の小手術	
14	7月 1日(2)	口腔外科小手術 歯科麻酔	
15	7月 4日(2)	歯科麻酔(局所麻酔 全身麻酔)	
16	7月 8日(2)	歯科治療時における全身的合併症	
17	7月15日(2)	救急蘇生法	
18	7月23日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		小児歯科学	小林 博昭
実務経験		歯科医師免許を有し、歯科診療所開業の実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
2		後期	2(32+2)
授業の目的			
成長発育途上にある小児の特性を理解し、歯科衛生士として必要な小児歯科学の知識と技術を学ぶ。			
行動目標			
1. 小児の発育の概要及び生理的特徴を理解する。 2. 小児の顔面頭蓋及び、歯、歯列、咬合の発育・異常を理解する。 3. 小児歯科疾患の概要を理解する。 4. 小児歯科診療について理解する。 5. 小児歯科における患者対応法について理解する。 6. 小児歯科における歯科衛生士の役割を理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「小児歯科」(医歯薬出) PC プロジェクター	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 4日(4)	小児歯科総論	
2	9月11日(4)	小児の診査・診断(問診票項目 小児への対応)	
3	9月18日(4)	小児の成長発育(身体・口腔・歯の発達と異常)	
4	9月25日(4)	歯の形成・発育・異常とその対応	
5	10月 2日(4)	咬合の発達(リーウエイススペース ターミナルプレーン等) 小児う蝕(3型分類 組織)	
6	10月 9日(4)	小児の全身疾患 軟組織疾患 感染予防 易感染症、 障害児(疾患 対応)	
7	10月16日(4)	う蝕治療 乳歯感染根管治療	
8	10月23日(4)	乳歯・永久歯の外傷	
9	11月 7日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		歯科矯正学	竹内 誠
実務経験		歯科医師免許を有し、歯科診療所開業の実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)	
2	後期	2(32+2)	
授業の目的			
矯正治療の目的や不正咬合の弊害を理解し、頭部顎顔面領域並びに歯列の成長発育についての知識を身につける。また、矯正治療における歯科衛生士の担う役割を認識し、患者管理・指導ができる基礎知識を身につける。			
行動目標			
1. 頭部・顎顔面の成長発育について理解する。 2. 咬合及び不正咬合について理解し、さらにその原因について理解を深める。 3. 様々な口腔習癖について理解する。 4. 矯正治療の生物力学について理解を深める。 5. 矯正治療における診査診断について理解する。 6. 矯正装置及び治療法さらに保定について理解する。 7. 矯正治療に使用する器材について理解する。 8. 矯正治療における歯科衛生士の役割について理解する。 9. 矯正治療における患者管理及び指導のポイントを理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「歯科矯正学」(医歯薬出版) 矯正用傷器材 PC プロジェクター	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	10月16日(4)	歯科矯正治療総論(治療の実際 目的・流れ・必要性、利益とリスク)	
2	10月23日(4)	成長発育(身体の成長発育、頭蓋・顎顔面の成長発育、歯・歯列の成長発育、口腔機能の発達)	
3	10月30日(4)	正常咬合と不正咬合(咬合とは、正常咬合の概念 下顎位と咬合位 下顎運動 個々の歯の位置異状、歯列弓の異状、上下歯列弓関係の不正、不正咬合状態)	
4	11月 6日(4)	不正咬合の分類・原因・予防 歯科矯正治療と力 歯の移動と固定 歯の移動と組織反応	
5	11月13日(4)	歯の移動病理 矯正力の作用時間 歯の移動様式 矯正力と顎整形力 保定 矯正装置(可撤式装置)	
6	11月20日(4)	矯正装置(固定式装置 機能的矯正装置 拡大装置 顎外固定装置 口腔習癖除去装置 保定装置)	
7	11月27日(4)	矯正歯科診断 矯正歯科治療における診断 診断に必要な検査 症例分析(模型分析 セファロ分析) 非拔牙治療と拔牙治療	
8	12月 4日(4)	矯正歯科用器具と取扱い 歯科矯正用材料と使用方法 まとめ	
9	12月19日(2)	試験	

[illegible]

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		障害者歯科学	遠藤 誠治
実務経験		歯科医師免許を有し、歯科診療所開業の実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
2		後期	1(20+2)
授業の目的			
心身障害者(児)の抱える各種疾患についての基礎的事項を理解し、その病態から起こる歯科的問題点を把握し、歯科の応対法及び指導法を学ぶ。			
行動目標			
1. 障害者(児)の概要を理解する。 2. 障害者(児)の全身的・歯科的特徴を踏まえ、歯科保健医療を進める上での留意点を理解する。 3. 障害者(児)の歯科保健指導及び口腔ケアの進め方、ポイントを理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。 (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「障害者歯科学」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 3日(4)	障害の概念 歯科医療で特別な支援が必要な疾患、知的障害	
2	9月10日(4)	障害疾患と分類 ダウン症 脳性麻痺	
3	9月17日(4)	行動調整法 笑気吸入鎮静法	
4	9月24日(4)	障害者の歯科医療と行動調整 障害者の口腔ケア	
5	10月 1日(4)	摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割	
6	10月17日(2)	試験	

[illegible]

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		う蝕予防処置Ⅱ 臨地臨床実習Ⅱ	松井 馨子
実務経験		歯科衛生士免許、専任教員・歯周病認定歯科衛生士資格を有し、歯科診療所での実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
2		後期	2(42+2+実習10=54)
授業の目的			
安全かつ効果のあるう蝕予防処置を行うために、効果的なう蝕予防法を計画することができる知識を身に付け、う蝕予防処置の的確な技術を習得する。			
行動目標			
1. う蝕予防法を述べることができる。 2. う蝕予防処置の方法を列挙できる。 3. フッ化物局所塗布の集団応用についての知識を身につける。 4. フッ化物局所塗布の集団応用法を立案し実施する。 5. 小児へのフッ化物局所塗布を行うことができる。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に実習の実技評価も加味し、総合的に評価する。 (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「歯科予防所論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) 「歯科衛生士のためのう蝕予防処置法」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 3日(4)	う蝕予防処置基礎知識復習	
2	9月 8日(4)	う蝕予防処置の集団応用基礎知識	
3	9月 9日(2)	う蝕予防処置の集団応用基礎知識	
4	9月17日(4)	フッ化物局所塗布法の集団応用法の演習	
5	9月24日(4)	フッ化物局所塗布法の集団応用法の演習 幼稚園実習オリ	
6	10月 3日(4)	フッ化物局所塗布法の集団応用法の演習 幼稚園実習オリ	
7	10月 6日(4)	幼稚園実習見学実習	
8	10月14日(4)	フッ化物塗布相互実習	
9	10月20日(4)	小児へのフッ化物塗布応用法の計画・準備品 (幼稚園実習計画・準備品リスト作製)	基礎・ユニット
10	10月31日(2)	小児へのフッ化物塗布応用法の計画・準備品 (幼稚園実習計画・準備品リスト作製)	基礎・ユニット
11	11月 6日(2)	小児へのフッ化物塗布法の演習(幼稚園実習ロールプレ) / 幼稚園実習準備	基礎・ユニット
12	11月10日(4)	幼稚園実習準備	基礎・ユニット
13	11月18日(4)	幼稚園実習準備	基礎・ユニット
14	11月26日(6)	幼稚園実習	
15	12月 1日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		歯周病予防処置Ⅱ	高地 亜弥
実務経験		歯科衛生士免許を有し、歯科診療所での実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
2		前期	2(74)
授業の目的			
疾病予防、健康増進に果たす歯科予防処置の効果を十分認識し、1年次に習得したシクルスケーラーにプラスして、キュレットスケーラーの操作法を習得し、一連の流れの中でのアプローチ・施術が出来るようにする。			
行動目標			
1. キュレットスケーラーの操作法を習得する。 2. 歯石除去に際しての観察法を再確認する。 3. 短時間で確実な歯石沈着状態の把握ができる。(エキスポローリング) 4. 短時間で確実な歯周ポケット観察法を習得する。(ブローピング) 5. キュレットスケーラーのシャープニング法を習得する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に実習の実技評価も加味し、総合的に評価する。 (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月10日(4)	歯石除去の流れの確認、スケーラーの操作法復習	基礎
2	4月16日(4)	キュレットスケーラー種類 基本的操作法 模型実習	基礎
3	4月21日(2)	キュレットスケーラー部位別操作法 模型実習	基礎
4	4月23日(4)	キュレットスケーラー部位別操作法 模型実習	基礎
5	4月28日(2)	キュレットスケーラー部位別操作法 模型実習	基礎
6	4月30日(2)	キュレットスケーラー部位別操作法 模型実習	基礎
7	5月 7日(2)	キュレットスケーラー部位別操作法 模型実習	基礎
8	5月 8日(2)	キュレットスケーラー部位別操作法 模型実習	基礎
9	5月 9日(2)	キュレットスケーラー部位別操作法 模型実習	基礎
10	5月12日(2)	キュレットスケーラー部位別操作法 模型実習	基礎
11	5月20日(2)	キュレットスケーラー部位別操作法 模型実習	基礎
12	5月23日(2)	キュレットスケーラー部位別操作法 模型実習	基礎
13	5月26日(2)	キュレットスケーラー部位別操作法 模型実習 総復習	基礎
14	5月 29日(2)	キュレットスケーラー部位別操作法 模型実習復習 / 診査復習	基礎
15	6月 5日(4)	マネキン評価	基礎・ユニット
16	6月11日(4)	相互実習オリエンテーション / シャープニング	基礎・ユニット
17	6月16日(2)	診査相互実習 (硬組織 ブローリング エキスポローリング)	ユニット
18	6月18日(4)	診査相互実習 (硬組織 ブローリング エキスポローリング)	ユニット
19	6月25日(4)	キュレット相互実習1	ユニット
20	7月 2日(4)	キュレット相互実習2	ユニット
21	7月 3日(2)	キュレット相互実習2	ユニット
22	7月 9日(4)	キュレット相互実習3	ユニット
23	7月11日(4)	キュレット相互実習4	ユニット
24	7月16日(4)	キュレット相互実習5	ユニット
25	7月18日(4)	キュレット相互実習 復習評価	ユニット

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		歯周病予防処置Ⅱ	高地 亜弥
実務経験		歯科衛生士免許を有し、歯科診療所での実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
2		後期	1(48+2=50)
授業の目的			
疾病予防、健康増進に果たす歯科予防処置の効果を十分認識し、1年次に習得したシクルスケーラーにプラスして、キュレットスケーラーの操作法を習得し、一連の流れの中でのアプローチ・施術が出来るようにする。			
行動目標			
1. キュレットスケーラーの操作法を習得する。 2. 歯石除去に際しての観察法を再確認する。 3. 短時間で確実な歯石沈着状態の把握ができる。(エキスプローリング) 4. 短時間で確実な歯周ポケット観察法を習得する。(プロービング) 5. 歯面研磨法及びPMTCの効率のよいテクニックを習得する。 6. 超音波スケーラー・エアースケーラーの操作法を習得する。 7. キュレットスケーラーのシャープニング法を習得する。 8. 実際の患者さんをモデルとし、ケースに応じた施術法を学ぶ。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に実習の実技評価も加味し、総合的に評価する。 (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月2日(4)	キュレット相互実習	ユニット
2	9月5日(2)	キュレット相互実習	ユニット
3	9月9日(4)	超音波スケーラー基礎知識・基礎実習	基礎・ユニット
4	9月12日(2)	超音波スケーラー相互実習(上顎)	ユニット
5	9月16日(4)	超音波スケーラー相互実習(上顎)	ユニット
6	9月26日(6)	超音波スケーラー(下顎)	ユニット
7	9月30日(4)	総合実習	ユニット
8	10月2日(2)	モデル実習に向けて	基礎
9	10月7日(4)	総合実習	ユニット
10	10月17日(4)	総合実習	ユニット
11	10月21日(4)	総合実習	ユニット
12	10月28日(4)	モデル実習1	ユニット
13	11月4日(4)	モデル実習2	ユニット
14	11月17日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		歯科保健指導Ⅱ	松井 馨子
実務経験		歯科衛生士免許、専任教員・歯周病認定歯科衛生士資格を有し、歯科診療所での実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
2		前期	2(66)
授業の目的			
多様化するニーズに対応した歯科保健指導をおこなうために、歯科衛生過程の知識と技術を習得する。			
行動目標			
1. 正しく情報収集をすることができる。 2. 情報に基づいた対象の把握ができる。 3. 対象者に応じた歯科保健指導計画を立案することができる。 4. 対象者に適した口腔清掃指導ができる。 5. 口腔の変化について観察・評価ができる。 6. 業務記録の目的を理解し、記録方法を学ぶ。 7. 症例検討・発表の仕方を理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を加味し評価する。 (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) 「歯肉を見る・歯肉を読む」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月9日(4)	2年前期保健指導について 歯科衛生アセスメント復習 情報収集(ブランクコントロール 主観的情報)	
2	4月16日(2)	歯科衛生アセスメント復習 情報収集(ブランクコントロール 客観的情報)	
3	4月17日(4)	歯科衛生アセスメント復習 情報処理 歯科衛生過程 診断・計画	
4	4月24日(4)	歯科衛生アセスメント(口腔内写真撮影相互実習)	ユニット
5	5月1日(2)	歯科衛生アセスメント(口腔内写真撮影相互実習)	ユニット
6	5月2日(2)	業務記録(目的・方法) 歯科衛生過程相互実習オリエンテーション	
7	5月8日(4)	歯科衛生過程相互実習① (情報収集)	ユニット
8	5月14日(2)	歯科衛生アセスメント(情報処理・分析)、歯科衛生診断の実際 歯科衛生計画の実際	
9	5月23日(4)	歯科衛生アセスメント(情報処理・分析)、歯科衛生診断の実際 歯科衛生計画の実際	
10	5月27日(2)	歯科衛生アセスメント(情報処理・分析)、歯科衛生診断の実際 歯科衛生計画の実際	
11	6月6日(4)	歯科衛生過程相互実習② (介入)	ユニット
12	6月9日(2)	歯科衛生アセスメント(情報処理・分析)の実際	
13	6月13日(2)	歯科衛生アセスメント(情報処理・分析)の実際	
14	6月19日(4)	歯科衛生過程相互実習③ (介入)	ユニット
15	6月24日(2)	歯科衛生アセスメント(情報処理・分析)の実際	
16	6月27日(4)	歯科衛生過程相互実習④ (評価のための情報収集)	ユニット
17	7月2日(4)	歯科衛生評価 歯科衛生過程相互実習発表オリエンテーション 歯科衛生過程相互実習発表準備	
18	7月10日(2)	歯科衛生過程相互実習発表準備	
19	7月11日(4)	歯科衛生過程相互実習発表準備	
20	7月14日(4)	歯科衛生過程相互実習発表	
21	7月18日(4)	歯科衛生過程相互実習発表 歯科衛生過程相互実習まとめ	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		歯科保健指導Ⅱ	松井 馨子
学 年		学 期	単位数(時間数)
2		後期	1(62+2=64)
授業の目的			
多様化するニーズに対応した歯科保健指導をおこなうために、各ライフステージにおける歯科衛生過程の知識と技術を習得する。。			
行動目標			
1. ライフステージごとの生活習慣・食習慣の把握ができる。 2. ライフステージにあわせた歯科衛生計画立案ができる。 3. ライフステージごとの口腔清掃法、栄養指導のポイントを説明することができる。 4. 食習慣と口腔保健の関連について理解する。 5. 歯科保健指導におけるコミュニケーションについて理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) 「歯肉を見る・歯肉を読む」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月1日(4)	歯科衛生過程の進め方復習 演習方法と書面化 学齢期の歯科保健指導の知識	
2	9月11日(4)	学齢期の歯科保健指導の知識	
3	9月19日(4)	学齢期の歯科保健指導の演習	
4	9月26日(2)	学齢期の歯科保健指導の演習	
5	9月29日(4)	学齢期の歯科保健指導の演習	
6	10月7日(2)	幼児期の歯科保健指導の知識	
7	10月10日(2)	幼児期の歯科保健指導の知識	
8	10月24日(8)	卒業研究発表会	
9	10月27日(2)	幼児期の歯科保健指導の知識	
10	11月6日(2)	幼児期の歯科保健指導の知識	
11	11月11日(2)	成人期の歯科保健指導の知識	
12	11月19日(2)	成人期の歯科保健指導の知識	
13	11月21日(2)	成人期の歯科保健指導の知識	
14	11月27日(4)	成人期の歯科保健指導の演習	
15	12月2日(4)	成人期の歯科保健の演習	
16	12月4日(4)	成人期の歯科保健の演習	
17	12月11日(4)	成人期の歯科保健の演習	
18	12月12日(2)	成人期の歯科保健の演習	
19	12月15日(4)	歯科衛生過程まとめ	
20	12月22日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		栄養指導Ⅱ	伊藤 志織
実務経験		管理栄養士の資格を有し、栄養士としての実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
2		前期	1(14+2)
授業の目的			
現在の食を取り巻く問題点を知ることにより、各ライフステージにおける指導のポイントを理解し、歯科保健指導につなげる。また、自分自身の食生活を振り返る機会とし、健康増進を図る。			
行動目標			
1. 現在の食生活の実態を把握し齲蝕・歯周疾患との関連性を理解する。 2. 栄養指導の進め方を理解する。 3. 各ライフステージにおける指導ポイントを理解する。 4. 自分自身の食生活の問題点を自覚し、改善しようと行動できる。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「栄養と代謝」医歯薬出版) 食品成分表(女子栄養大学)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月11日(2)	食生活と栄養(食生活と疾病構造の変化 国民健康栄養の現状と課題)	
2	4月25日(2)	国民健康づくりにおける食生活改善 望ましい食生活	
3	5月 2日(2)	ライフステージ別の栄養と調理:乳幼児期	
4	5月 9日(2)	ライフステージ別の栄養と調理:幼児期 学童期 思春期 妊産婦期 成人期	
5	5月23日(2)	ライフステージ別の栄養と調理:貧血 離乳期	
6	5月30日(2)	ライフステージ別の栄養と調理:貧血 離乳期	
7	6月 6日(2)	食べ物と健康(食品成分表 食べ物の物性)	
8	6月20日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		歯科診療補助Ⅱ	小島 香織
実務経験		歯科衛生士免許を有し、歯科診療所での実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
2		前期	2(74)
授業の目的			
歯科診療における補助業務を理解し実践するため、歯科診療および治療の流れを理解し、必要な手技を身につける。			
行動目標			
1. 共同動作のポイントをを理解し、実践できる。 2. 使用頻度の高い歯科材料の特性を理解し、適正に取り扱うことができる。 3. 適正な時間内に正確な口腔内診査を行うことができる。 4. スタディーモデルの作製のための印象採得及び模型作製ができる。 5. 補綴処置、外科処置の流れを理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「歯科診療補助」 「歯科材料の知識と取扱い」「歯科器械の知識と取扱い」 (医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月11日(2)	1年時の復習 2年時の授業の流れ 教室	
2	4月14日(2)	保存修復・歯内療法処置流れ復習 教室	
3	4月16日(2)	保存修復・歯内療法処置流れ復習 教室	
4	4月25日(4)	保存修復・歯内療法処置流れ復習 基礎	
5	5月 1日(4)	歯肉圧排・隔壁・隔壁について 基礎	
6	5月 7日(2)	スタディーモデル基礎知識(印象材取り扱い/石膏取り扱い含む) 教室	
7	5月 9日(2)	スタディーモデル基礎知識(印象材取り扱い/石膏取り扱い含む) 基礎	
8	5月14日(2)	レントゲン撮影実習に向けて 基礎・ユニット	
9	5月15日(2)	レントゲン撮影実習まとめ 基礎	
10	5月22日(4)	スタディーモデル印象採得 基礎・ユニット	
11	5月30日(4)	スタディモデル台付け 基礎	
12	6月 2日(2)	歯周外科処置流れ 基礎	
13	6月 4日(2)	歯周外科処置流れ 教室	
14	6月12日(4)	歯周外科処置流れ 補綴処置流れ 支台築造 基礎	
15	6月13日(2)	補綴処置流れ 支台築造 基礎	
16	6月17日(2)	補綴処置流れ クラウン・ブリッジ 教室	
17	6月19日(4)	補綴処置流れ クラウン・ブリッジ 基礎	
18	6月23日(2)	補綴処置流れ PD・FD 基礎	
19	6月26日(2)	補綴処置流れ PD・FD 基礎	
20	6月27日(2)	抜歯の処置流れ 難抜歯の処置流れ 基礎	
21	6月30日(4)	抜歯の処置流れ 難抜歯の処置流れ 基礎	
22	7月 4日(4)	診査 医療面接 硬組織診査 教室	
23	7月 8日(2)	診査 硬組織診査 基礎	
24	7月 9日(4)	診査相互実習 ユニット	
25	7月16日(4)	診査相互実習 ユニット	
26	7月17日(4)	前期復習 基礎	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		歯科診療補助Ⅱ	小島 香織
実務経験		歯科衛生士免許を有し歯科診療所での実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
2		後期	1(68+2=70)
授業の目的			
歯科診療における診療補助業務を理解し実践するために、歯科診療と歯科治療の流れを十分理解し必要な手技について習得する。			
行動目標			
1. 診療の流れを理解し、患者への配慮ができる。 2. 各処置について順序立てたセッティングができる。 3. 各処置流れに対応したスムーズな診療補助法について理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「歯科診療補助」 「歯科材料の知識と取扱い」「歯科器械の知識と取扱い」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月4日(4)	ラバーダム防湿基礎知識基礎	
2	9月12日(4)	ラバーダム防湿基礎知識基礎	
3	9月19日(4)	ラバーダム防湿相互実習ユニット	
4	9月22日(4)	診療の流れと患者配慮教室	
5	9月30日(2)	保存修復(直接法修復)のセッティング 歯科衛生士の役割基礎	
6	10月1日(4)	保存修復(直接法修復)のセッティング 歯科衛生士の役割基礎	
7	10月10日(4)	保存修復(直接法修復)のセッティング 歯科衛生士の役割基礎・ユニット	
8	10月14日(2)	歯内療法(歯髄除去療法)のセッティング 歯科衛生士の役割基礎	
9	10月21日(2)	歯内療法(歯髄除去療法)のセッティング 歯科衛生士の役割基礎・ユニット	
10	10月27日(2)	歯内療法(根管治療・根管充填)のセッティング 歯科衛生士の役割基礎・ユニット	
11	10月28日(2)	歯内療法(根管治療・根管充填)のセッティング 歯科衛生士の役割基礎・ユニット	
12	11月14日(4)	歯内療法(根管治療・根管充填)/歯科補綴(支台築造)のセッティング 歯科衛生士の役割基礎・ユニット	
13	11月20日(4)	歯科補綴(支台築造)のセッティング 歯科衛生士の役割基礎・ユニット	
14	11月21日(2)	歯科補綴(形成印象 装着)のセッティング 歯科衛生士の役割基礎・ユニット	
15	11月25日(4)	歯科補綴(形成印象 装着)のセッティング 歯科衛生士の役割基礎・ユニット	
16	12月2日(4)	歯科補綴(形成印象 装着)のセッティング 歯科衛生士の役割基礎・ユニット	
17	12月3日(4)	歯科補綴(形成印象 装着)/抜歯・難抜歯のセッティング 歯科衛生士の役割基礎・ユニット	
18	12月10日(4)	抜歯・難抜歯のセッティング 歯科衛生士の役割基礎・ユニット	
19	12月12日(2)	歯周外科処置のセッティング 歯科衛生士の役割 小児歯科のセッティング 歯科衛生士の役割基礎・ユニット	
20	12月16日(6)	後期復習基礎・ユニット	
21	12月22日(2)	試験	

[illegible]

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		摂食嚥下	五島秀樹 清水美希
実務経験		歯科医師免許を有し、総合病院口腔外科での実務経験を有する 歯科衛生士免許を有し、総合病院口腔外科での実務経験を有する	
学 年			単位数(時間数)
2		後期	2(36+4+2=42)
授業の目的			
要介護高齢者について理解した上で、食物摂取や嚥下に関する諸器官の機能回復及び保持増進について学び、歯科衛生士の専門性を活かした口腔ケアができるようにする。			
行動目標			
1. 食物摂取や嚥下に関する諸器官の機能・メカニズムを理解する。 2. 食物、食物の形態を学び正しい摂食・嚥下法を学習する。 3. 高齢者・要介護者に対する口腔機能向上を含めた口腔ケアができるようになる。 4. 病院における口腔ケアの必要性を理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション (医歯薬出版) PC プロジェクター 演習用器材	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 1日(4)	中枢神経の機能 リハビリテーション総論	
2	9月 8日(4)	食べる仕組み 口腔の構造 咀嚼筋の構造 唾液の作用 嚥下の5期 嚥下の仕組み	
3	9月22日(4)	摂食嚥下とは 摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生ケアプロセス 嚥下リハビリテーションと口腔ケア	
4	9月29日(4)	摂食嚥下における間接・直接訓練 摂食嚥下に対する食指導・食支援 リスクマネジメント 摂食嚥下リハビリテーションにおける連携	
5	10月 6日(4)	摂食嚥下の仕組み	
6	10月20日(4)	直接訓練法(開閉口 口腔周囲・舌筋 頬 咀嚼・送り込み アイスマッサージ 呼吸訓練 排痰法)	
7	10月27日(4)	直接訓練法 頸部聴診法	
8	11月10日(4)	嚥下食 直接訓練(代償的訓練法) 口腔ケア	
9	11月17日(4)	口腔ケアの実際手技・器材 (清水美希先生)	ユニット
10	12月 1日(4)	口腔ケアの実際手技・器材の取組みと実践の場 周術期口腔ケア	
11	12月22日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		介護学	田中 ゆう子
実務経験		保健師・助産師の免許を有し、保健師助産師養成校等での実務経験を有	
学 年	学 期		単位数(時間数)
2 年	後期		1 (12+2)
授業の目的			
体験により高齢者の身体的特徴を理解する。また、基本的介護法を習得する。			
行動目標			
1. 高齢者の身体的特徴を理解する。 2. 演習により被介護者について理解する。 3. 基本的な介護法を習得する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」(医歯薬出版) 演習用器材	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	10月 8日(2)	介護の基本的な考え方 法的根拠に基づく介護	
2	10月15日(2)	高齢者の身体的特徴 高齢者疑似体験 DVD「小規模多機能居宅介護」	
3	10月22日(2)	介護技術基本編 ①麻痺についての理解(立ち方 歩き方) ②視覚障害者の理解 ③ボディメカニックスの理解	
4	10月29日(2)	介護技術 ①車椅子の介助法 ②杖歩行の介助法	実習室
5	11月 5日(2)	介護技術「衣服の着脱介助」 演習「元気な人の着方 右麻痺の人の着脱介助」	
6	11月12日(2)	運動の重要性と廃用症候群 DVD「認知症高齢者啓発ビデオ」	
7	12月 8日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		情報処理Ⅱ	小野恵子
実務経験		サーティファイExcel計算処理技能認定資格を有し、企業にて事務、HP作成管理、システム開発等の実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
2		前期	1(30)
授業の目的			
表計算ソフトExcel2016の基本的操作をマスターし、一般的な書類が作成できるよう学習する。			
行動目標			
エクセルの基本操作が出来る			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験(60分うち30分テキスト使用可)の得点に、日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		繰返して慣れる！完全マスターExcel2019練習問題334題 (noa出版) USBメモリー 201教室	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月15日(2)	Excelの基本操作 データのダウンロード	
2	4月22日(2)	表の作成 印刷	
3	4月30日(2)	ビジネスで使用する計算 相対参照、絶対参照	
4	5月 7日(2)	関数の利用	
5	5月13日(2)	関数の利用	
6	5月20日(2)	関数の利用	
7	5月27日(2)	さまざまな書式	
8	6月 3日(2)	復習と確認	
9	6月10日(2)	グラフの作成	
10	6月17日(2)	データ分析 並べ替えとフィルター	
11	6月24日(2)	シートの活用	
12	7月 1日(2)	Excelの活用	
13	7月 8日(2)	復習と確認	
14	7月15日(2)	テスト	
15	7月22日(2)	テスト解説	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		コミュニケーションⅡ	野村 恵美
実務経験		メディア出演や執筆、イベント司会、取材などを通じて、日頃から「聴く」「伝える」「関わる」ことに向き合う現役フリーアナウンサー。EQGA公認プロファイラー。	
学 年		学 期	単位数(時間数)
2		前期	1(20)
授業の目的			
チーム医療の担い手として、多職種と協働する上で医療人に必要な感情の自己管理の仕方「EQ」を理解するとともに、患者様との信頼関係を築き、患者様に寄り添えるコミュニケーション能力を身につける			
行動目標			
1. 自己の「EQ特性」を理解し、課題となる「素養」開発に取り組む 2. チーム医療を行う上で歯科衛生士として必要なコミュニケーション能力を知り、開発していく 3. 医師やスタッフそして患者様との「ストレスフリー」な信頼関係を築くために自己の「EQ」の働きを理解し、高める。 4. EQを開発することで自己肯定感を高め、前向きな学習意欲を身に着ける			
成績評価・検定			
期末課題レポート(90%以内)授業態度等(10%以内)で加味し評価する。 (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		レジュメ	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月14日(2)	「EQI」受検	
2	4月21日(2)	「コミュニケーション能力はなぜ必要か？」	
3	4月28日(2)	「EQI」～フィードバック&自己理解と課題～	
4	5月12日(2)	「EQI」個人フィードバック(1)～自習	
5	5月19日(2)	「EQI」個人フィードバック(2)～自習－2年次のEQ開発目標	
6	5月26日(2)	「EQI」個人フィードバック(3)～自習－「EQ開発カレンダー作成」	
7	6月 2日(2)	「EQI」個人フィードバック(4)～自習－「EQ開発カレンダー作成」	
8	6月 9日(2)	「働くためのコミュニケーション能力とは」	
9	6月16日(2)	「働くための能力とは」	
10	6月23日(2)	期末課題レポート	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		カウンセリング	清水 千恵子
実務経験		産業カウンセラー・キャリアコンサルタント資格を有しNPO法人勤務の経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
2		後期	1(20)
授業の目的			
カウンセリングの意義を理解し基本的な知識と考え方を学び、歯科衛生士として患者様との信頼関係の構築を図り、問題の明確化・共有を行うことで、相手に必要な行動変容を促す力を身につける。			
行動目標			
1. カウンセリングの基本的知識を身につける。 2. カウンセリング技法とカウンセリングマインドを習得する。 3. 現場で必要とされるカウンセリングの基礎を習得する			
成績評価・検定			
授業中の課題に対する発表を総合的に評価し、日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書			
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 2日(2)	カウンセリングの基盤と倫理	
2	9月 9日(2)	カウンセリングの技法とマインドの違い・相互理解について	
3	9月16日(2)	非言語と言語コミュニケーション カウンセラーのパーソナリティー	
4	9月30日(2)	自己概念化	
5	10月 7日(2)	価値観の明確化	
6	10月14日(2)	カウンセリング演習① 受容 支持	
7	10月21日(2)	カウンセリング演習② 繰り返し	
8	10月28日(2)	カウンセリング演習③ 明確化 質問	
9	11月 4日(2)	事例検討	
10	11月11日(2)	事例検討	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		歯科医療保険事務	呉羽 かおり
実務経験		歯科衛生士免許、専任教員認定衛生士資格を有し歯科診療所での実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
2		後期	2(48+2=50)
授業の目的			
医療従事者として必要な医療保険の基礎知識、診療録の整理、診療報酬請求事務について習得する。			
行動目標			
1. 社会保険のしくみを理解する 2. 医療保険制度を理解する 3. カルテの書き方を理解する 4. 歯科保険請求事務を理解する			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験結果により評価する。			
教科書・参考書		歯科衛生士のための歯科診療報酬入門2024-2025(医歯薬出版株式会社)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 2日(2)	医療事務とは	
2	9月 5日(2)	医療保険制度の概要	
3	9月10日(4)	歯科点数表総論	
4	9月18日(4)	歯科点数表の特徴	
5	9月25日(4)	歯科点数表の特徴	
6	10月 2日(2)	初診料と再診料	
7	10月 3日(4)	歯周治療の算定	
8	10月 9日(4)	周術期等口腔機能管理・回復期口腔機能管理の算定	
9	10月30日(4)	日常臨床に必要な算定 (修復 歯内療法)	
10	10月31日(4)	日常臨床に必要な算定 (補綴-クラウンブリッジ)	
11	11月 4日(2)	日常臨床に必要な算定 (補綴-有床義歯)	
12	11月 7日(4)	日常臨床に必要な算定 (抜歯・エックス線診断)	
13	11月11日(4)	日常臨床に必要な算定 (投薬・う蝕予防管理)	
14	11月13日(4)	事例	
15	11月17日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		手話	千野裕子・北田和弥
実務経験		県登録手話通訳者としての実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
2		前期	1(30+2)
授業の目的			
耳の不自由な方が不安なく歯科診療を受けられるように聴覚障害について理解し、多様なコミュニケーション方法を学ぶ。 また、基礎的な手話および歯科関係の手話表現を習得する。			
行動目標			
1. 聴覚障害および聴覚障害者について理解する 2. 多様なコミュニケーション方法を学ぶ 3. 手話の基礎表現(名前・指文字・数字・人物・時・住所・職業・趣味)を身につける 4. 歯科の手話(単語・場面会話)を習得する 5. 聴覚障害者とのコミュニケーションの実際を体験する			
成績評価・検定			
留意点: 手話は「動く言葉・視る言葉」です。講師の表現をしっかりと見て、自分でも手・指・体をしっかり動かしながら覚えましょう。講義終了時に行う試験の得点に、レポート・毎授業後行う確認テスト及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価します。(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		「医療の手話シリーズ①手話で必見！医療のすべて<外来編>（全日本ろうあ連盟出版局） プリント 振返りシート	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月15日(2)	手話で自己紹介	
2	4月22日(2)	聞こえの仕組みとコミュニケーション方法	
3	5月 7日(2)	基礎表現: 挨拶・名前・指文字	
4	5月13日(2)	基礎表現: 数字・時	
5	5月20日(2)	基礎表現: 人物表現 家族の紹介	
6	5月27日(2)	基礎表現: 趣味・職業・住所	
7	6月 3日(2)	中間試験(手話による1分間スピーチ)	
8	6月10日(4)	(北田T) 聴覚障害者のくらし・歯科医院での実際	
9	6月17日(2)	歯科の手話①	
10	6月24日(2)	歯科の手話②	
11	7月 1日(4)	(北田T) 診療室での会話	
12	7月 8日(2)	受付での会話	
13	7月15日(4)	(北田T) 復習 試験（筆記・実技）	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		臨地臨床実習Ⅱ（歯科診療所）	松井 馨子
実務経験		歯科衛生士免許、専任教員・歯周病認定歯科衛生士資格を有し、歯科診療所での実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
2		後期	5(160+126=270)
授業の目的			
臨床の場を体験することにより各教科で学んだ内容について確認し、実践的理解を深める。 また、医療人としての自覚を促し、歯科衛生士として幅広い視野を身につけ、さらに良い人間関係を保つためのコミュニケーション能力を養う。			
行動目標			
1. 歯科診療の概要を理解する。 2. 一般歯科治療の流れを理解し、歯科衛生士業務について実感的に理解する。 3. 歯科矯正治療の流れを理解し、矯正歯科における歯科衛生士の業務を理解する。 4. 医療人としての基本的応対法を身につける。 5. 患者様に寄り添う事の出来る人間性を養う。			
成績評価・検定			
実習終了時に各実習施設指導者により行う。			
教科書・参考書			
週数	月日(時間数)	授 業 内 容	
33	11月14日(2)	実習オリ	
34	11月18日(2)	実習オリ	
35	11月25・26・28日(10)	準備	
36	12月 1・ 5日(6)	準備	
37	12月 8日(4)	準備	
	12月 9日(8)	一般歯科診療所現地オリエンテーション	
	12月10・11・12日(12)	準備	
38	12月15～18日(22)	準備	
39	12月23日(4)	準備	
41	1月 6～ 8日(18)	準備	
42-47	1月13～2月20日(152)	臨床実習(診療所)	
42	1月13～16日(12)	実習準備	
46	2月 9～13日(12)	実習準備	
48	2月24～26日(22)	実習まとめ・報告会	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		臨地臨床実習Ⅱ(高齢者施設)	松井 馨子
実務経験		歯科衛生士免許、専任教員・歯周病認定歯科衛生士資格を有し、歯科診療所での実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
2		前期	1(40+28=66)
授業の目的			
臨床の場を体験することにより各教科で学んだ内容について確認し、実践的理解を深める。 また、医療人としての自覚を促し、歯科衛生士として幅広い視野を身につけ、さらに良い人間関係を保つためのコミュニケーション能力を養う。			
行動目標			
1. 高齢者施設の概要を理解する。 2. 高齢者施設利用者様との交流をはかる。 3. 高齢や施設での介護法を学ぶ。 4. 高齢者施設における口腔衛生管理について学ぶ。 5. 患者様に寄り添う事の出来る人間性を養う。			
成績評価・検定			
実習終了時に各実習施設指導者により行う。			
教科書・参考書			
週数	月日(時間数)	授 業 内 容	
15	7月 7日(2)	実習オリ	
17	7月22・24・25日(20)	実習オリ 準備	
18	7月28～8月 1日(20)	前半実習	
19	8月 4～8月 8日(20)	後半実習	
22	8月28日(6)	まとめ	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		歯周病予防処置Ⅲ	正村 昭子
実務経験		歯科衛生士免許を有し、歯科診療所総合病院口腔外科等での実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
3		前期	1(32)
授業の目的			
1・2年生で学習し身につけた歯石除去のテクニックの基本を再確認し、安全で効率的な施術法について理解し、 疾病予防・健康増進の担い手としての役割を十分理解する。			
行動目標			
1. 歯石除去の意義・流れについて再確認する。 2. エキスプローリング、プロービングの基本的操作法を確認する。 3. シックルスケーラー、キュレットスケーラー、超音波スケーラーの基本的操作法を確認する。 4. スケーラーのシャープニング法を再確認する。			
成績評価・検定			
歯周病予防処置Ⅰ・Ⅱを踏まえた技術の習得に重点をおき、授業における技術点を100点満点として評価する。			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月10日(4)	診査・スケーラー—操作法及びシャープニング法 歯面清掃器について 基礎/ユニット	
2	4月11日(4)	相互実習1(エキスプローリング・プロービング) ユニット	
3	4月15日(4)	相互実習1(スケーリング) ユニット	
4	4月23日(4)	相互実習2(超音波) ユニット	
5	4月30日(4)	相互実習3(超音波) ユニット	
6	5月 7日(4)	相互実習4(スケーリング) ユニット	
7	5月13日(4)	相互実習5(スケーリング) ユニット	
8	5月23日(4)	まとめ 評価 ユニット	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		歯科保健指導Ⅲ	松井 馨子
実務経験		歯科衛生士免許、専任教員・歯周病認定歯科衛生士資格を有し、歯科診療所での実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
3		前期	1(30)
授業の目的			
ニーズに合わせた歯科保健活動を実践するために、口腔ケアの基本となる知識・技術・態度を習得する。			
行動目標			
1. 歯科衛生過程のプロセスを進めることができる。 2. 歯科衛生業務記録を作成することができる。 3. 症例検討法について説明することができる。			
成績評価・検定			
歯科保健指導Ⅰ・Ⅱを踏まえた技術の習得に重点をおき、授業における技術点80%・レポート20%を考慮し評価する。			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「歯科保健指導」 最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月10日(4)	歯科衛生過程復習 アセスメント(情報収集・情報整理) 歯科衛生診断・計画	
2	4月11日(4)	歯科衛生過程相互実習 情報収集(口腔写真撮影 歯肉・プラーク観察) ユニット	
3	4月16日(4)	業務記録・歯科衛生アセスメント	
4	4月24日(4)	歯科衛生過程相互実習 介入(口腔清掃指導・術者磨き) ユニット	
5	4月30日(4)	業務記録・歯科衛生アセスメント	
6	5月 9日(4)	歯科衛生過程相互実習 評価 ユニット	
7	5月13日(4)	歯科衛生評価	
8	5月19日(2)	歯科衛生過程相互実習まとめ	

[illegible]

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		臨床実習Ⅲ	正村 昭子
学 年		学 期	単位数(時間数)
3		前期～後期	12(320+124+178＝622)
授業の目的			
1. 2年次に習得した知識と技術を再確認し、臨床における歯科衛生士の業務を習得する。また医療人としての自覚を養い、症例に応じたコミュニケーション能力及びコンピテンシーを身につける。			
行動目標			
1. 総合病院口腔外科における歯科衛生士の業務を習得する。 2. 歯科診療所における歯科衛生士の業務を習得する。 3. 医療人としての基本的対応法を身につける。 4. 患者様に寄り添う事の出来る人間性を養う。			
成績評価・検定			
実習終了時に各実習施設指導者により評価を行う			
教科書・参考書			
週	月日(時間数)	授 業 内 容	
3	4/14～18 (16)	臨地臨床実習オリエンテーション/臨床実習準備	
4	4/21～25 (22)	臨床実習準備	
5	4/28～5/2 (14)	臨床実習準備	
6	5/7～9 (8)	臨床実習準備	
7	5/12-23(36)	臨床実習準備	
	5/20 (8)	診療所実習現地オリエンテーション	
8	5/26-30(28)	臨床実習準備	
	5/28 (4)	長野赤十字病院オリエンテーション	
9-25	6/2～9/26 (312+120)	長野日赤 診療所実習 2カ所	
	6/2～9/26 (30)	準備・まとめ	
26	9/29～10/1 (24)	臨床実習まとめ	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		臨地実習Ⅲ(乳幼児・成人・高齢者)	正村 昭子
学 年		学 期	単位数(時間数)
3		前期～後期	0.5(70)
授業の目的			
地域歯科保健における歯科衛生士の役割を理解し、他職種との連携について学ぶ。			
行動目標			
1. 乳幼児健診の意義・内容を学び、歯科衛生士の役割について理解を深める。 2. 成人健診の意義・内容について学び、歯科衛生士の役割について理解を深める。 3. 高齢者施設における口腔ケア支援の実際について学び、歯科衛生士の役割について理解を深める。			
成績評価・検定			
各実習終了時学生指導者間でのまとめ反省会を持つと同時に全実習終了時にまとめを行い評価に変える。			
教科書・参考書			
	月日(時間数)	授 業 内 容	
全 体	4月14日	臨地実習オリエンテーション	
成 人 (1 8)	4/14(2)	オリエンテーション	
	4/16(4)	総合健康センター事前オリ	
	4/22 (8)	総合健康センター実習(A)	
	4/25	総合健康センター実習(B)	
	5/14	総合健康センター実習(C)	
	5/15	総合健康センター実習(D)	
	5/16 (4)	まとめ	
高 齢 者 (2 0)	4/24(4)	オリエンテーション	
	5/8(4)	高齢者 特別講義	
	5/16(4)	高齢者 施設オリエンテーション	
	6/13～9/19(8)	実習	
乳 幼 (1 4)	4/28(2)	オリエンテーション	
	5/12(2)	乳幼児特別講義	
	5/19(2)	乳幼児特別講義	
	6月～9月(8)	乳幼児臨地実習	
全体(18)	6月～10月(18)	臨地実習準備・まとめ	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		臨地実習Ⅲ（特別支援学校）	正村 昭子
学 年		学 期	単位数(時間数)
3		後期	0.5(104)
授業の目的			
特別支援学校及び児童生徒に対する理解を深め、歯科保健指導の展開法を実践的に学ぶ。			
行動目標			
1. 特別支援学校及び、児童生徒の実態を理解する。 2. 特別支援学校における歯科保健指導の展開法を学ぶ。 3. 特別支援学校における児童生徒への保健指導のポイントを理解する。 4. 特別支援学校における児童生徒とのコミュニケーションの図り方を学ぶ。			
成績評価・検定			
実習終了時に、実習指導担当者により評価を行う			
教科書・参考書			
週	月日(時間数)	授 業 内 容	
31	10/27-31(30)	特別支援学校実習オリ・準備	
	10/28 (6)	特別支援学校実習準備・見学	
32	11/4-7(32)	特別支援学校実習準備	
33	11/10(4)	特別支援学校歯科保健指導実習(中等部)	
	11/10-13(20)	特別支援学校実習準備	
	11/13(4)	特別支援学校歯科保健指導実習(小等部)	
	11/14(8)	まとめ	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		卒業研究	正村 昭子
学 年		学 期	単位数(時間数)
3		前期～後期	2(122)
授業の目的			
3年間の総仕上げとして、臨床実習中に担当した患者の症例研究や、ここまでの学びの知識を深めた研究を行う事により、歯科衛生士職についての理解を深め、今後に役立てる。			
行動目標			
1. 症例研究・研究の目的を理解し、実際の症例や研究項目をまとめるプロセスを通じ、研究の手順を学ぶ。 2. 担当症例・研究内容について研究抄録をつくることができる。 3. 担当症例・研究内容についてパワーポイントを作成し、卒業研究発表会にて発表することができる。 4. 上記プロセスを通じ、研究について理解を深め、今後の歯科衛生士活動に繋げる。			
成績評価・検定			
卒業研究発表後、学校教務により、研究の過程と結果について評価を行う。			
教科書・参考書			
週	月日(時間数)	授 業 内 容	
9	5/26 (2)	卒業研究概要(進め方)	
27～ 29	9/29-10/17(78)	卒業研究発表準備	
30	10/20-23 (32)	卒業研究発表準備	
	10/24 (8)	卒業研究発表会	
31	10/27 (2)	まとめ	